

第6節 15号墓

(遺構) 丘陵北側斜面の中腹付近に形成された掘込墓で、06号墓・07号墓を見下ろす位置にある。露頭する石灰岩岩盤の自然形状(岩陰)をさらに掘り込んで横穴式の墓室を造り出し、墓室の前面は石積構築で囲むあるいは閉塞する墓の外観形態であったかと推測する。後世(戦後)に墓室内部及び墓前面・墓庭を改修している。

墓室内正面(奥壁)及び中央床部(シルヒラシ)にコンクリートを打設後、コンクリートブロックで「H」字形に区画し、正面奥壁に一段高まった棚を1段、左右両側(南・北)に「イケ」を配置する墓室構造となっている。

墓室内に蔵骨器は置かれておらず、墓口も閉塞石が開けられた空墓の状態だが、左右のイケには細かく骨粉化した被葬者人骨が堆積した状態であった(写真4.12)。

表4.12. 15号墓 遺構観察表

位置情報		座 標 X: 50780.065 Y: 43443.471 海拔高 H: 17.49m
構築場所(立地)		丘陵縁辺部に近い斜面中腹付近
遺構種類(分類)		掘込墓
遺構詳細	規模	(墓口) 幅員0.67m/高さ1.0m/奥行0.85m 墓口は北東方位を向く。 (墓室) 幅員3.83m/高さ1.1~1.4m/奥行2.15m (墓庭) 長軸(北西-南東方向) 約4.6m×短軸約3.2m
	特徴	露頭する琉球石灰岩岩盤の岩陰を掘り込み、横穴式の墓室を形成。 岩陰利用の掘込墓(おそらくは岩陰掘込墓)であったものを後世に改修、コンクリートブロックで墓室内に奥壁・棚、床(シルヒラシ)及び機道部もコンクリート敷設。墓口(墓の前面)、墓庭をコンクリート打設・造成。 墓室内の天井は石灰岩岩盤(岩陰墓以来の自然面と推測)。
出土遺物		(墓室内) 銭貨、煙管、ガラス製品、貝類遺体・脊椎動物遺体(小動物) (墓室外) 陶製専用蔵骨器、沖縄産胎胎陶器、本土産近代磁器
備 考		墓室内両側(北・南)の「イケ」には多量の被葬者とみられる多量の人骨片。 人骨調査による推定個体数は、イケ南側で38体(うち未成人骨6体)、イケ北側で45体(うち未成人骨10体)。



写真4.11. 15号墓

049. 15号墓近景 (墓庭辺立地) 050. 15号墓 墓庭 (清掃後)
051. 15号墓正面 (墓口付近) 052. 15号墓 墓室内 (精査前現況)

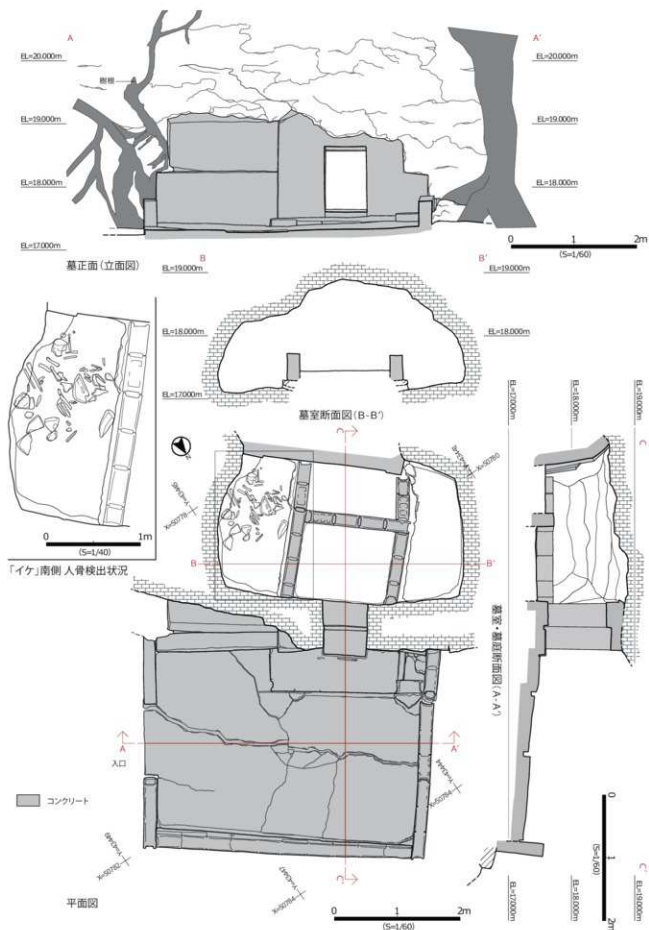


図4.17. 15号墓 (正面・平面・断面図各種)



写真4.12. 15号墓 墓室内

053. 墓室内南側
054. 墓室内北側
055. 墓室内「イケ」南側
056. 墓室内「イケ」北側
057. 墓室内 調査作業風景
058. 床面付近 被葬者人骨検出状況
059. 作業風景 (人骨等の選別)
060. 「イケ」内 完壁状況 (北側)

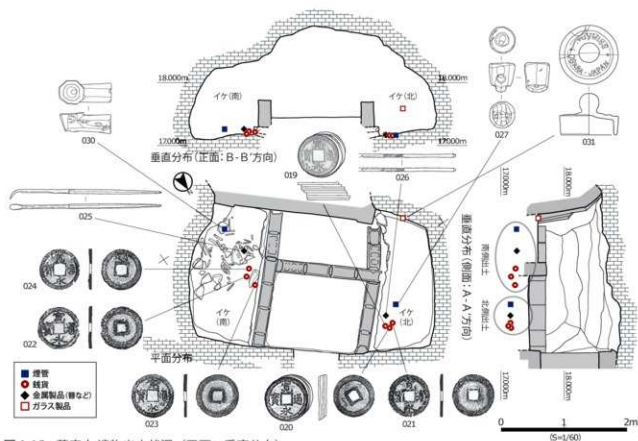


図4.18. 墓室内 遺物出土状況 (平面・垂直分布)



061. 墓室内遺物出土状況 (イケ南側) 062. 15号墓周辺 遺物散布状況
063. 15号墓 出土遺物集合 064. 15号墓下・周辺採集遺物

写真4.13. 15号墓出土遺物、15号墓下・周辺採集遺物

イク内に残る人骨の量から比較的長期間にわたり使用された墓かと推量する。イク内に溜まる細かい人骨片を除くと、床面付近では四肢骨や頭蓋骨が規則性をもって並べられており、改葬行為（二次葬）が認められる。（出土遺物）墓室内のイク内から人骨に伴って副葬品とみられる銭貨や煙管・簪等も出土している。

墓庭周辺の丘陵斜面には墓移転時に廃棄された陶製蔵骨器が多く散布していた。眼下に位置する07号墓周辺でも廃棄された蔵骨器類が多く散布していたが、15号墓で使用されていたものの可能性もあることから、07号墓周辺で採集した専用蔵骨器等の遺物もあわせて「15号墓崖下・周辺採集」として報告する。

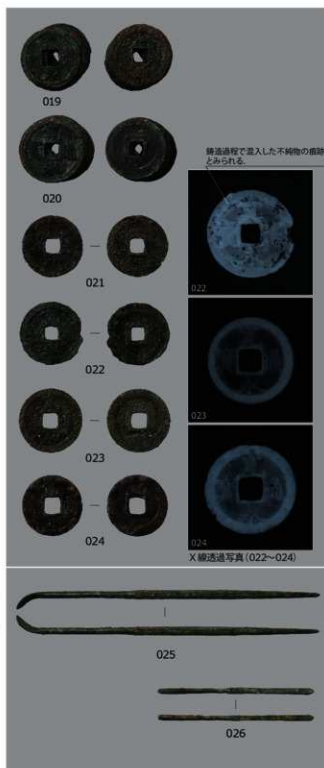
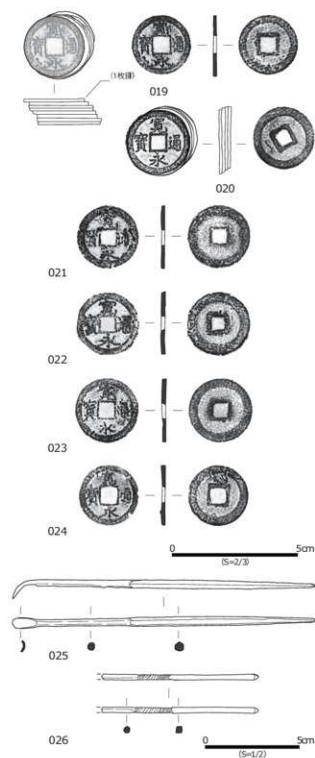


図4.19. 15号墓 出土遺物（1）

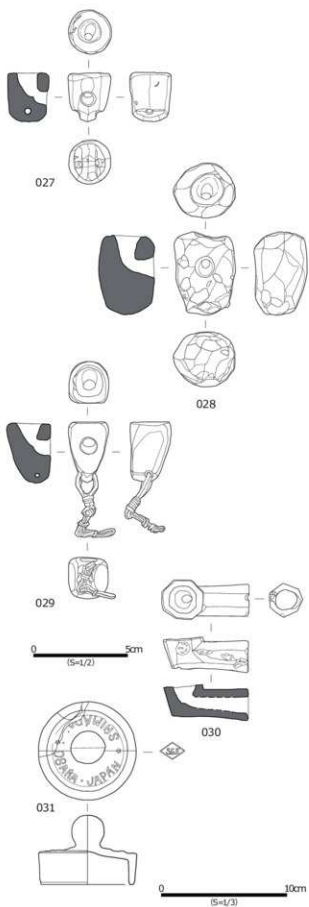


図4.20. 15号墓 出土遺物 (2)

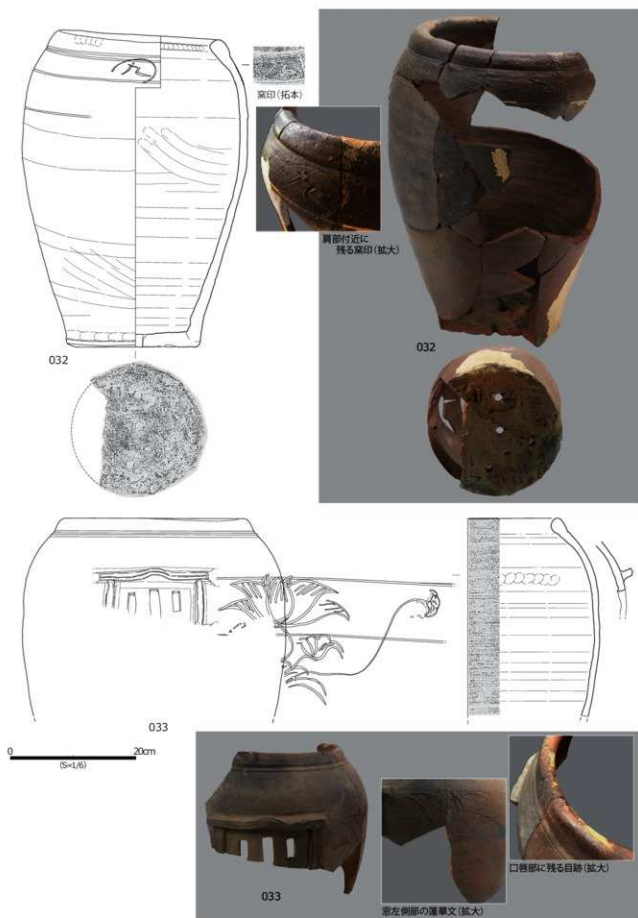


图4.21. 15号墓出土遗物(3)

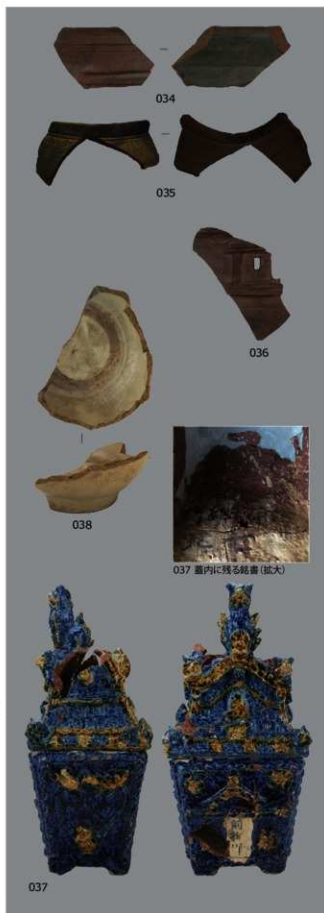
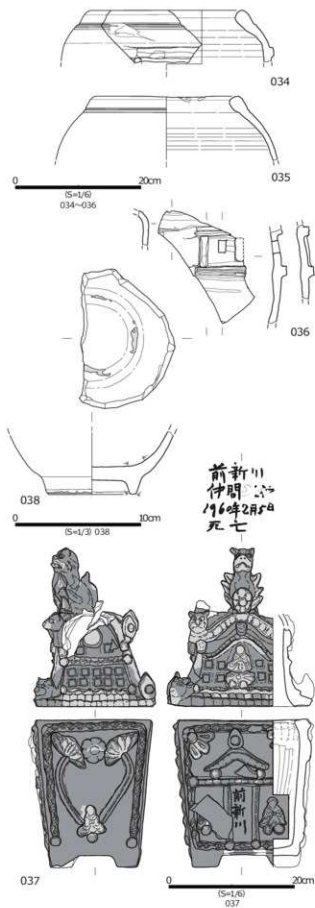


図4.22. 15号墓出土遺物(4)

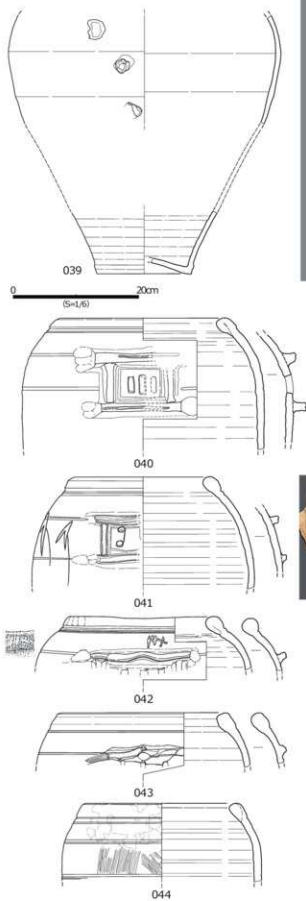


図4.23. 15号墓崖下・周辺採集遺物(1)

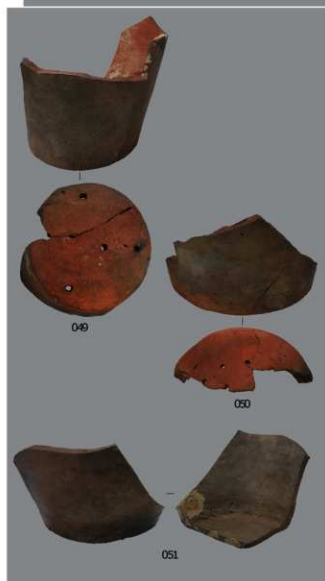
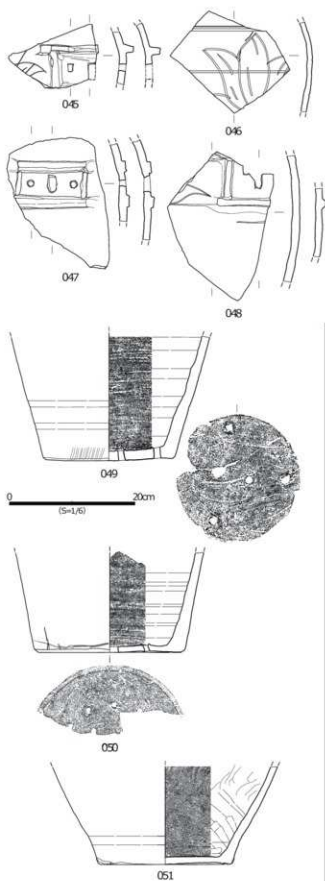


図4.24. 15号墓崖下・周辺 採集遺物 (2)

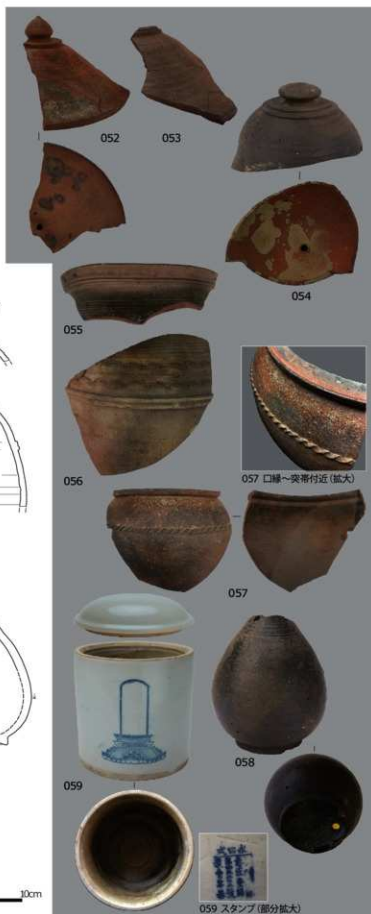
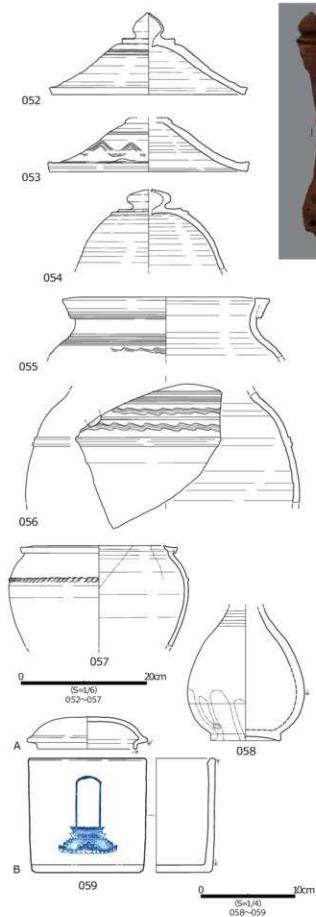


図4.25. 15号墓崖下・周辺 採集遺物 (3)

第7節 17号墓・17'号墓

(遺構) 丘陵北側の縁辺部付近、15号墓へと降るルートの途上に位置する。露頭石灰岩岩盤の崖壁にみる不自然な抉れや当該個所周辺の現況地形から墓の可能性

を想定した。結果的には石積構築等の構造物や被葬者人骨・専用蔵骨器は確認されず、墓と断定できないが、崖壁岩盤に人為的掘削の痕跡らしき抉れがみられ、沖縄産無釉陶器壺を採集した(図4.27)。丘陵上近くに

表4.13. 17'号墓 遺構観察表

位置情報	座 標 X: 50759.593 Y: 43447.677 海拔高 H: 26.280m
構築場所(立地)	丘陵縁辺付近の緩傾斜地
遺構種類(分類)	コンクリート造箱型墓
遺構詳細	規模 (台座) 1.13m×1.13m (正方形) (箱型墓) 縦(南北方向) 0.55m×横(東西方向) 0.6m (略正方形)
	特徴 仮墓あるいは重墓。整地後に台座を造り箱型墓を設置。唐波風形の屋根(蓋)は分離する造り。正面には簡略化された唐波風の屋門が表現されているが、穴(窓)はあけられていない。
出土遺物	(墓内) (墓外) 周辺から沖縄産施釉陶器1点採集。
備 考	蓋が外された「空墓」の状態で確認。

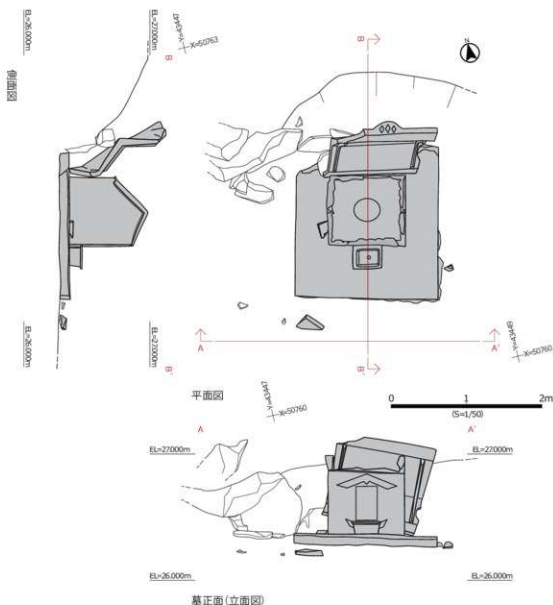


図4.26. 17'号墓(仮墓・童墓)(正面・平面・断面図各種)

立地し近接する墓もないことから（他所の墓からの）流れ込みとも考えにくく、墓の可能性も否定できない。

他方、17号墓がある丘陵縁辺付近の平場で、仮墓・童墓とみられるコンクリート造りの箱型墓を確認した（17号墓）。屋根（蓋）は外されており、移転・放

棄された状態であった。約1.1m×1.1mの台座上に約0.6m四方のコンクリート製の箱型墓及び香炉を設置する。一般に仮墓でみられる本墓は付近になく、他の墓群とも離れた位置にあって点的である。墓周辺を精査したが遺物は得られていない。



写真4.14. 17号墓及び17号墓（仮墓・童墓）

065. 17号墓現況近景（踏査確認時） 066. 17号墓実測作業風景
067. 17号墓（精査後） 068. 17号墓内部（精査後）

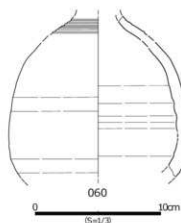


図4.27. 17号墓周辺 採集遺物

第8節 19号墓

(遺構) 突端小丘陵南側斜面地の裾部で確認した掘込墓である。石灰岩盤に掘削して墓室を造り、開口部に石積で墓口を構築する。確認時点で墓前面(墓口付近)は失われているが、外観の屋根部分にあたる頂上(チシ)の形状、袖石(スディシ)や袖垣(スディガチ)に平面観が凸字状の墓庭など、一般的な亀甲墓と共通・類似する特徴を認める(亀甲墓と組み合わせた掘込墓)。

墓室内はシルヒラシを中心に棚が凹字状に構築される。棚に段差はみられない。墓室内の壁・天井は岩盤掘削面のままで石積みを伴わない。墓室内の棚及び墓前面の石積みは比較的丁寧な造りである。なお、墓室



写真4.15. 19号墓(踏査確認時現況)

表4.14. 19号墓 遺構観察表

位置情報		座標 X: 50714.809 Y: 43459.139 海拔高 H: 13.02m
構築場所(立地)		丘陵南側斜面裾部
遺構種類(分類)		掘込墓(外観・墓室構造に亀甲墓と共通・類似する特徴を併せ持つ)
遺構詳細	規模	(墓口) 幅0.8~1.8m/高さ1.68m/築道奥行0.56m 南西方位に向く (墓室) 幅3.5m/奥行1.8m/高さ(天井高) 1.26~1.7m (墓庭) 縦軸(北東-南西方向) 約4.55m×横軸(南東-北西方向) 約6.54m、略長方形の平面観
	特徴	丘陵裾部岩盤を掘込み、立方体状に墓室を形成。 墓室中央のシルヒラシを平坦に整えた後、周囲を板状の石灰岩で囲み棚状にしている。 墓室内天井は岩盤加工 外観は亀甲墓に似るが屋根は丘陵斜面をそのまま残す。墓庭を囲む袖垣は石積みで、庭床はコンクリート敷き。
出土遺物		(墓室内) 専用蔵骨器(赤埃部殿元) 蓋、ガラス製品 (墓室外) 専用蔵骨器、沖縄産瀬戸物器、本土産近代磁器、煙管(吸口)、金属製品、貝類遺体
備考		墓室内から被葬者人骨片(成人女性1体、幼児1体、乳児1体)、 墓室中央(シルヒラシ)でブタ頭骨埋設遺構を検出。

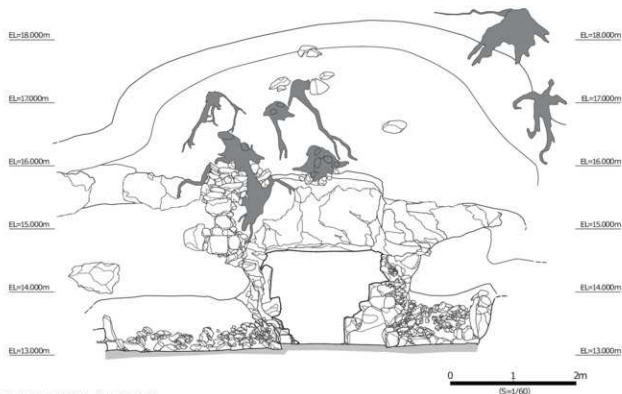
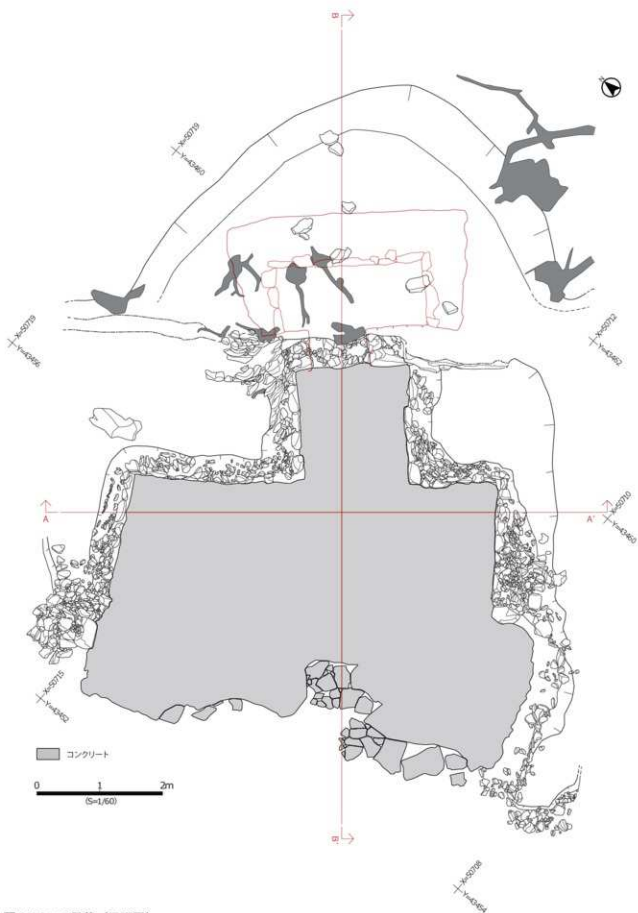


図4.28. 19号墓(墓正面図)



写真4.16. 19号墓

070. 19号墓周辺近景
071. 墓口周辺 精査・検出状況
072. 墓庭 検出状況
073. 墓室内 調査前現況
074. 墓室内区画石積 確認状況
075. シルヒラシ半統・土層確認
076. シルヒラシ及び甕 発掘状況
077. 墓室内 甕形成過程確認状況



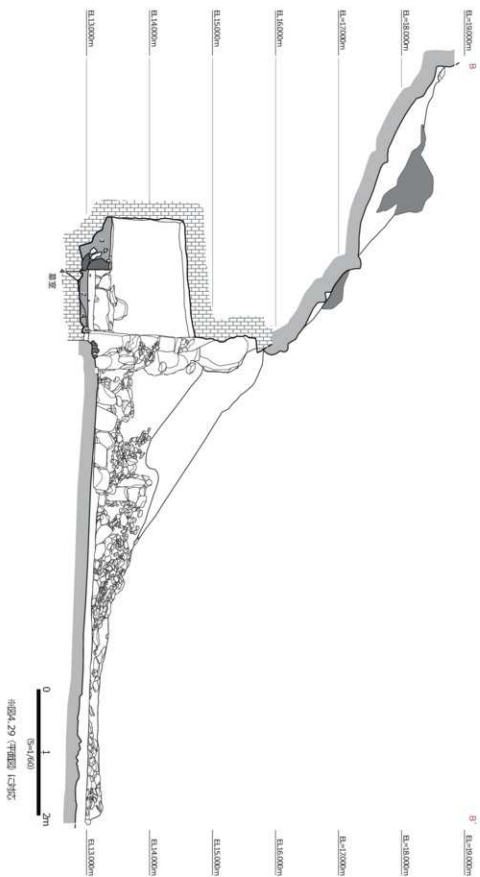


図4.30. 19号墓 (断面見透図)

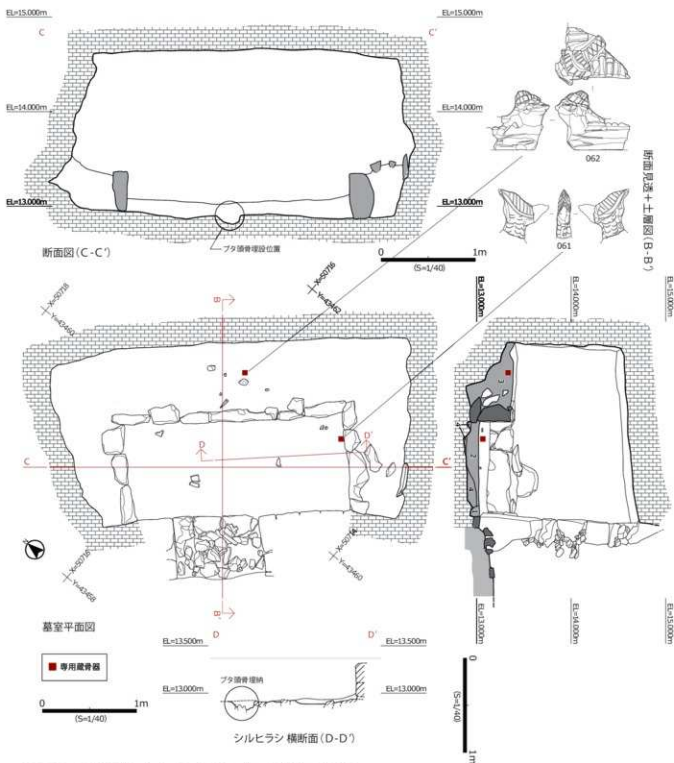


図4.31. 19号墓 墓室内（平面図・断面図）及び遺物出土状況

表4.15. 19号墓墓室内土層観察表

層	土色（色調）	土質	層厚 (cm)	硬度 (kg/cm ²)	観察所見	備考
1	5YR5/8 明赤褐	砂質土	10	20.0	細礫・細砂を含む砂質土。奥壁や石積築造時の工痕土（埋土）と推定。 墓口の奥壁構築時の根石並置のための細砂が伴う埋土か。	
2	10YR6/6 明黄褐	砂質土	3-13	40.0	細礫を少量含む砂質土。シルヒラシ床面を形成。非常に固く締まる。 礫を伴った墓室埋土（砂質土所定の埋土）を食ち、締め固めたものと推測される。	
3	2.5YR6/6 明黄褐	砂質土	7-43	1.0	細礫を多く含む砂質土。締まり固く崩れやすい。棺部の構築時に地石の嵩ため材として再利用したものと推測。蔵骨器を置く際に「すわり」を安定させるため、締め固めずに意図的に締まりの弱い状態で敷設したか。	
4	10YR5/6 黄褐	石灰岩	2-9		地山（砂質石灰岩）。	

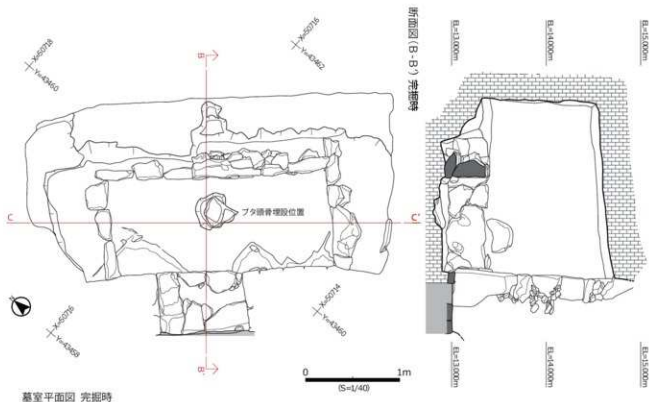


図4.32. ブタ頭骨埋設遺構 検出位置 (平面・断面図)

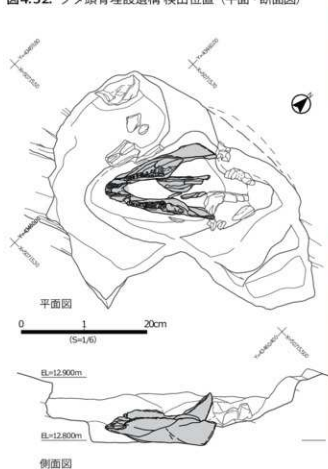


図4.33. ブタ頭骨埋設遺構 (平面・断面図)



078. 墓室内におけるブタ頭骨埋設位置
079. シリヒラン中央の床に埋設されたブタ頭骨(下顎骨)

写真4.17. ブタ頭骨埋設遺構 検出状況

内床土の掘削過程で、シルヒラシ中央付近床面の岩盤を掘り込んだブタ頭骨埋設遺構を検出している（図4.32・33）。検出時点で認めたのは下顎骨のみで上顎・頭蓋骨は見当たらなかった。金武町で初出の確認事例

であるとともに、（現時点において）沖縄本島内でも最北の検出事例であり、特筆される（第VI章第3節参照）。

墓庭前方部に設定した試掘溝（トレンチ）の土層観察により墓庭造成過程が窺える（図4.34）。

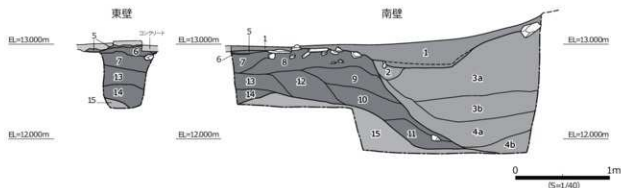


図4.34. 19号墓墓底部土層断面図（東壁・南壁）

表4.16. 19号墓墓底部土層観察表

層	土色(色調)	土質	層厚 (cm)	硬度 (kg/cm ²)	観察所見	備考
1	10YR3/3～4/6 暗褐～黒	砂質土	4-30		層様土置りの暗表土。粘性弱く、締まりやや強め。褐色粘土粒・石灰岩砕礫が多く入る。腐敗・風化した遺骨等々の遺物が大量出土。	炭骨器等が一括出土。
2	10YR4/6 褐	砂質土	0-19		粘性弱く、締まりやや強め。自然流路が埋没したか、①層及び③層土が置りしあった層。	
3a	2.5YR6/6 明黄褐	粘性土	0-64		粘性あり、締まり強め。周辺の埋地土層上等に造成土。	
3b	10YR5/6 黄褐	砂質土	0-27		粘性あまりなく、締まり強。③a層と同じく造成土とみられる。	
4a	10YR4/4 褐	粘性土	0-30		石灰岩細礫や貝殻片等が多く入る。造成以前の旧表土。	
4b	10YR4/6 褐	粘性土	0-22		粘性あり、締まり強い。③a層に比べ、層全体に下位層土が多く入る。	
5	10YR2/3 黒褐	砂質土	0-4		粘性は弱く締まり弱。墓庭をコンクリート敷設した時点の表土。	
6	7.5YR4/4 褐	粘土	0-11		粘性強く全体に非常に締まる。砂粒混じりの粘土。墓庭の埋地層。	
7	10YR4/4 褐	粘土	8-20		粘性は高く締まり弱。砂混じりの粘土。層全体に石灰岩細礫が入る。墓庭造成層。	
8	10YR4/4 褐	砂質土	0-22		粘性弱く締まりは強め。墓庭造成に伴う造成層。	
9	7.5YR6/6 明褐	砂質土	0-23		粘性あまりなく締まり弱。石灰岩骨盤を掘削し、墓を築造する際の造成層。	
10	10YR5/6 黄褐	砂質土	0-24		粘性弱く締まりも弱。⑨層・⑩層土が置りしあう。墓庭造成時の造成層。	
11	7.5YR4/6 明褐	粘質土	0-23		粘性あり締まりやや弱。粘土に粉砂が多く入る。墓庭造成時の造成層。	
12	7.5YR6/6 明褐	粘質土	0-30		粘性わずかで締まり弱。層全体に砂や石灰岩細礫が入る。墓庭造成時の造成層。	
13	10YR4/6 褐	粘質土	0-22		粘性あり、締まりもやや強め。層全体に砂質感が強く、石灰岩細礫が多量に入る。墓庭造成時の造成層。	
14	10YR4/6 褐	粘質土	0-25		粘性弱く、締まりやや弱。⑭層に類似するが全体に砂質感もある。石灰岩細礫が入る。墓庭造成時の造成層。	
15	7.5YR6/6 明褐	粘土	44		粘性高く締まりもやや強め。粘土ベースだが、層全体に砂が混じる。地山（岩盤風化土層）。	



写真4.18. 19号墓墓底土層確認状況（墓庭前方試掘トレンチ）

080. 試掘溝東壁にみる墓庭造成過程
081. 試掘溝全体及び南壁



082

写真4.19. 19号墓 出土遺物集合

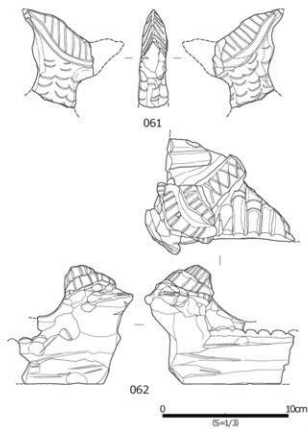


図4.35. 19号墓 出土遺物 (1)

(遺物) 墓室内では移転の際にこぼれた被葬者人骨の小片とともに専用蔵骨器の破片2点(陶製御殿形の蓋飾り部分)を得たのみである(図4.35)。当該墓で使用された蔵骨器は墓庭前方部にまとめて破砕・廃棄された状態であった。副葬品・供膳具とみられる陶磁器類や金属製品も出土している。これらは墓移転の際に

割り、まとめて廃棄したものと推測される。

接合・復元後の蔵骨器をみると、無頸甕形(ボージャー形)は蓋・身ともに2点のみと少なく、有頸甕形・外反甕形のいわゆる「マンガン釉掛け」甕形が量的に主勢を占めている。墓室外一括廃棄の状態で得たものだが、墓の造営時期推定の手掛かりになるものと思料される。

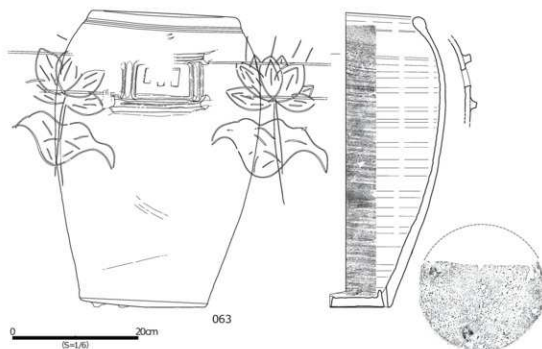


図4.36. 19号墓 出土遺物 (2)

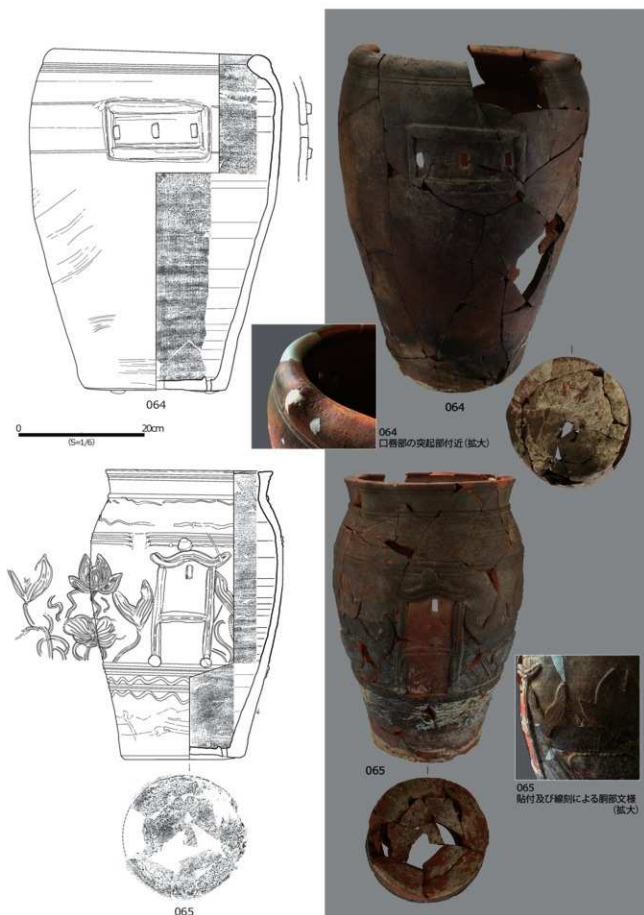


図4.37. 19号墓 出土遺物 (3)

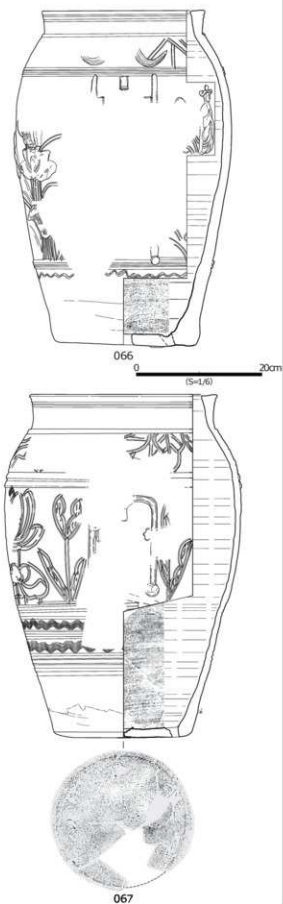


图4.38. 19号墓 出土遺物 (4)

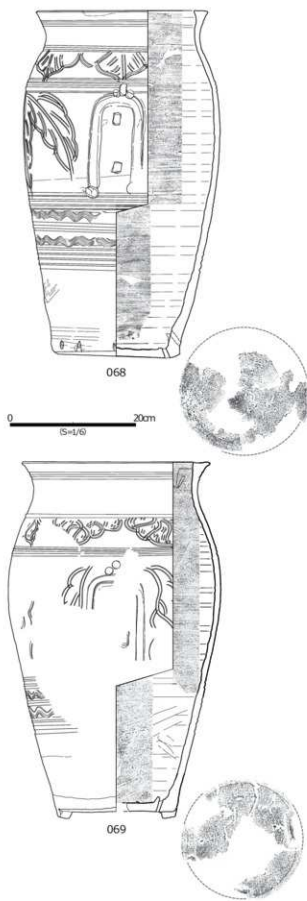


图4.39. 19号墓 出土遺物 (5)

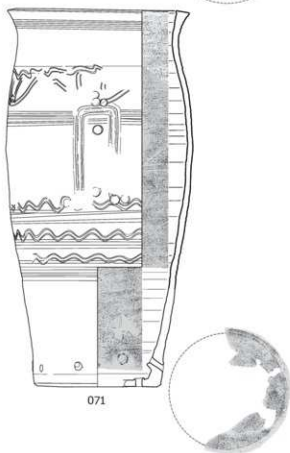
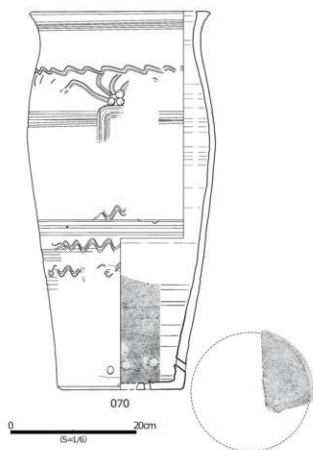


图4.40. 19号墓 出土遗物 (6)

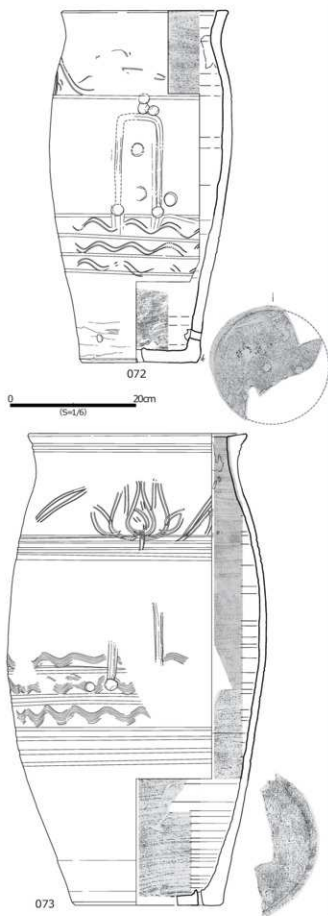


図4.41. 19号墓 出土遺物 (7)

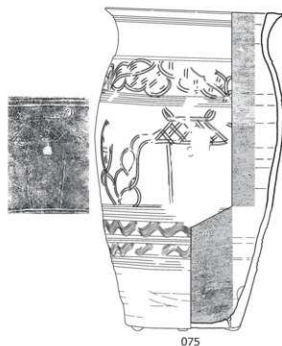
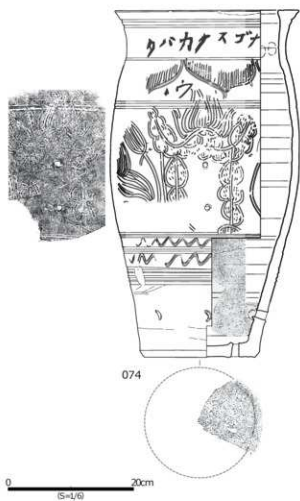


図4.42. 19号墓 出土遺物 (8)

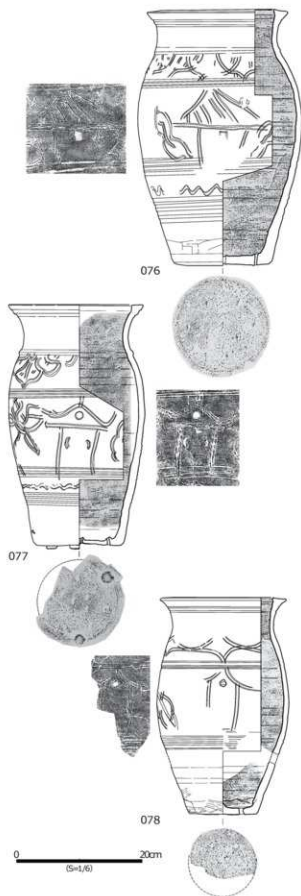


図4.43. 19号墓 出土遺物 (9)

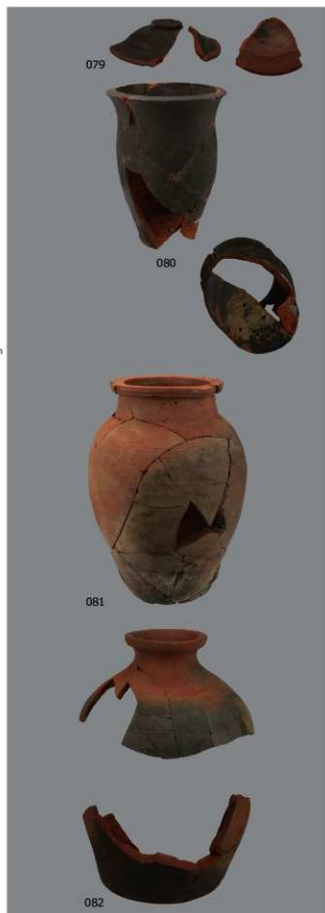


图4.44. 19号墓 出土遗物 (10)

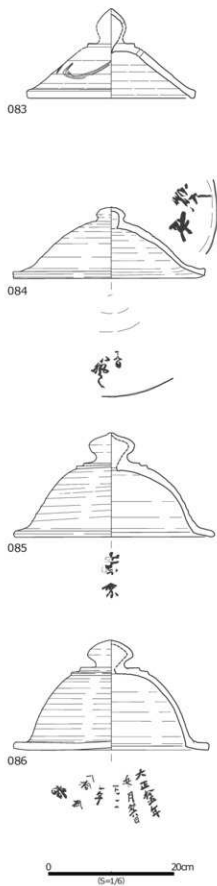
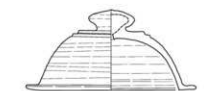


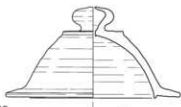
図4.45. 19号墓 出土遺物 (11)



087



088



089



090



091



图4.46. 19号墓 出土遗物 (12)

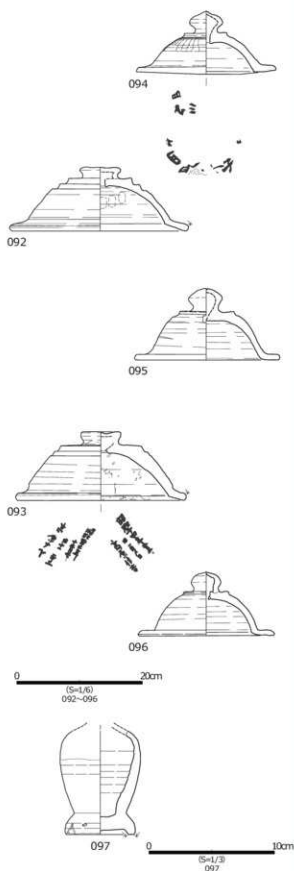


図4.47. 19号墓 出土遺物 (13)

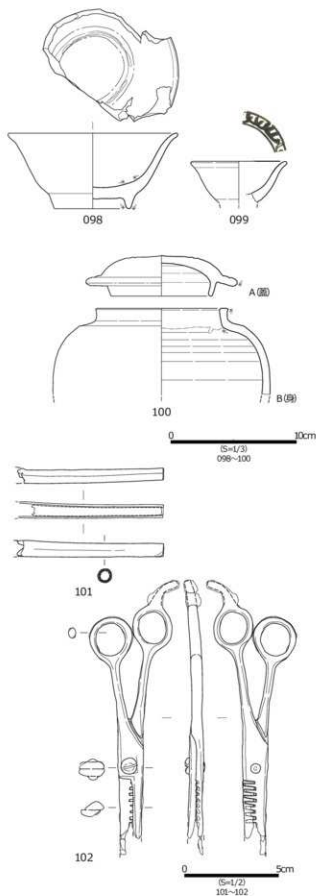


図4.48. 19号墓 出土遺物 (14)

第9節 23号墓

(遺構) 調査区南端、他の墓群が立地する石灰岩丘陵南端から少し離れ、浮島状にある露頭石灰岩岩盤に構築された小規模な堀込墓である。今回の調査では唯一、墓室に蔵骨器が置かれた状態で確認された墓である。

墓室の規模は小さく、墓室の平面観も不整形である(図4.50)。墓口を塞ぐ石積は雑然と積まれるが、石積を除くと墓口を囲むように礫が列状に並べられている。墓前底部は平坦に整地造成され、墓口の傍には軸石らしき面(つら)が並んだ石積の痕跡もみられる。



写真4.20. 23号墓 (踏査確認時現況)

表4.17. 23号墓 遺構観察表

位置情報		座標 X: 50609.384 Y: 43455.137 海拔高 H: 8.140m
構築場所(立地)		南側丘陵先端部
遺構種類(分類)		堀込墓
遺構詳細	規模	(墓口) 幅1.32m/高さ0.65m (墓室) 幅1.40m/奥行0.69m/高さ(天井高) 0.69m
	特徴	露頭石灰岩岩盤を掘り込み墓室を形成。墓口に大小の礫を積み上げて閉塞する。 墓前底部も平坦に造成。
出土遺物		(墓室内) 専用蔵骨器 (墓室内) 専用蔵骨器・沖繩産施釉陶器・無釉陶器・本土産近現代磁器、金属製品(煙管、銭貨)、ガラス製品
備考		今回調査で唯一、墓室内に蔵骨器(厨子壺)が安置された状態。 蔵骨器(遺物No.104)には成人男性・女性及び幼児・乳児の計4体が納められる。

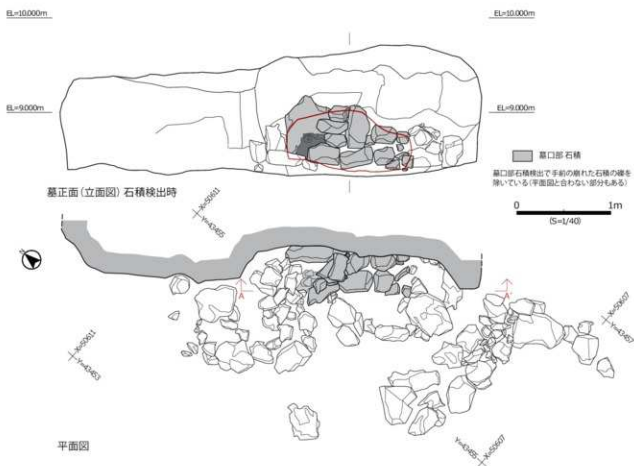


図4.49. 23号墓 (墓正面・平面図) ※石積等検出時

墓室内には無頭甕形(ボージャー形甕子)、有頭甕形(いわゆるマンガン袖掛け甕)が1個ずつ並置された位置関係で検出した(図4.51)。墓室床面を掘り穿てて蔵骨器を置き、固定のため掘削土を再び埋め戻している模様。

無頭甕形(ボージャー形)蔵骨器内の人骨調査の結果、成人男女と幼児・乳児の計4体の合葬を確認している(第V章参照)。蓋の内面に銘書を確認でき、外周部に「■ ■ ■ ■ ■ (年号+干支カ) 八月拾六日…移名(移居?)」

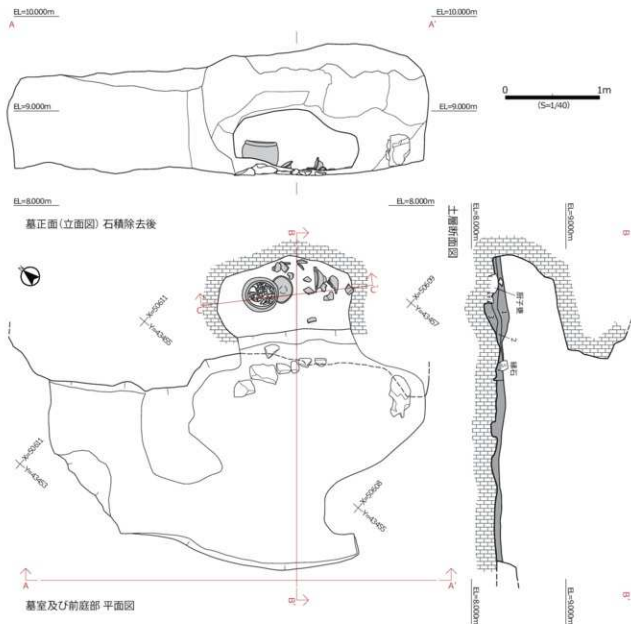


図4.50. 23号墓(墓正面・平面・断面図各種) ※墓室内確認時

表4.18. 23号墓墓室内土層観察表

※図4.51 墓室断面見透図(土層図)に対応。

層	土色(色調)	土質	層厚 (cm)	硬度 (kg/cm ²)	観察所見	備考
1	10YR3/4暗褐	シルト	2-11	—	締まり弱。植物根も多く入り、腐植土化で全体に黒味帯びる。 墓外からの流入した土(吹き込み)とみられる。	
2	10YR5/6黄褐	砂質 シルト	2-14	—	締まりややあり(③)。数mm程度の石灰岩細礫が混入。 蔵骨器置く際の埋土(③層土がベース)に、①層の有機質が含まれたものと推測。	
3	10YR5/8黄褐	砂質 シルト	2-8	—	粘性少しあり締まり弱。黒色は①層になるが、5mm以下砂礫を多く含む。 岩礫の落みにみられ、蔵骨器を置くに固定のため入れた埋土とみられる。	
4	10YR6/6明黄褐	砂質 シルト	2-10	—	粘性はごく弱く、締まり弱。細かい石灰岩礫が多く入り、 蔵骨器設置に伴う留附土を再び埋め戻したものか。	

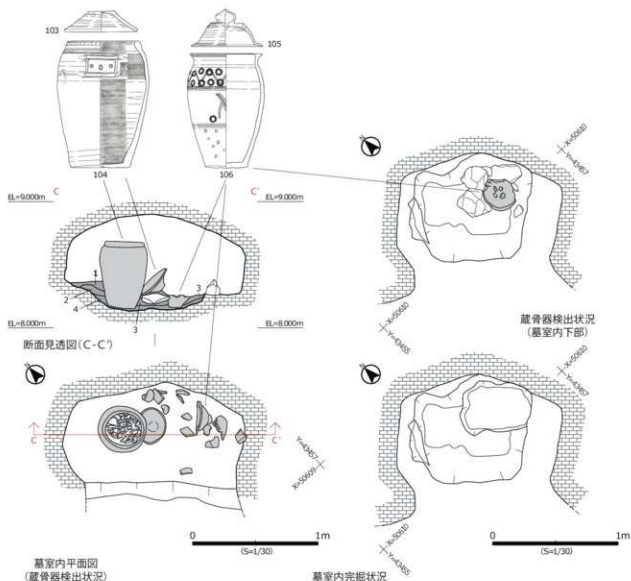


図4.51. 23号墓墓室内 (平面・断面図各種)

その内側に縦書で「光緒五年己卯七月■■ (■■は四日か?) 死…」 「死嶋■■人引越 (?)」等の銘書を確認できる。「○人引」は身内・家族が一緒に入っていることを意味^{*}、干支及び日付とみられる墨書も確認できることから、「その年に同じ甕に移し入れた」の意味と推測される。

(遺物) 墓室内に置かれた蔵骨器は無頭甕形(ボージャー形)の身及び蓋、外反甕形タイプの身及び蓋である。前者は唯一の完形資料。外反甕形タイプの蔵骨器は一見して土器かと思ふ程度で、焼成がかなり悪く手に取るに脆く崩れてしまう状態である。肩部文様帯に鋸歯状の幾何文とあわせて施文される菊花文に似た花卉押型文

(スタンプ文) も特徴的で、県内の近世墓出土資料にも類例が殆ど見当たらない。文様意匠で類似性がある例に、銘苅原古墓群(那覇市)、前田・経塚近世墓群(浦添市)出土資料があるが(図4.53) **、器形はともに有頭甕形であり、サイズも23号墓出土の蔵骨器が一回り小さい。多少の歪みがある蔵骨器が実際に使用される例は少なくないが、焼成不良な粗悪品が流通対象となり得たのか(売買されたのか) 気になるところでもある。

墓室内に置かれた蔵骨器のほか、墓口及び前庭部周辺では破碎・廃棄された有頭底付甕形タイプの蔵骨器、副葬品とみられる銭貨(寛永通寶)・煙管吸口のほか、沖縄産無釉陶器、本土産近現代磁器碗(紙部焼

* 村原弘哲氏のご教示による。

** 那覇市教育委員会編『銘苅古墓群 (1)』(那覇市文化財調査報告書第39巻) 1998年、浦添市教育委員会編『前田・経塚近世墓群』(浦添市文化財調査報告書) 2012年。



写真4.21. 23号墓

084. 23号墓正面（右横検去前）
 085. 墓室内現況（確認時）
 086. 墓口周辺 石横検出作業風景
 087. 墓口石横検去後
 088. 墓室内 蔵骨器設置状況
 089. 半掘による墓室内土層断面
 090. 蔵骨器検出状況
 091. 完掘状況

103

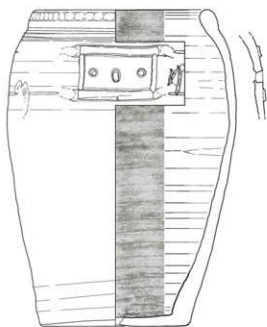


103



103 蓋内面の銘書(拡大)

104



0 20cm
(S=L/6)

104



104 口縁~意付近(部分拡大)



104 身の内部

図4.52 23号墓 出土遺物 (1)

や瀬戸美濃系の碗)、中国徳化窯系の白磁小碗・色絵杯、ガラス製容器などが出土している。腹面部が穿孔され突起部先端に欠損がみられるクモガイ科貝殻も出土しているが、当該墓に伴うものではなく先史時代遺物が流入した可能性もあり得る。



092

写真4.22. 23号墓出土遺物集合

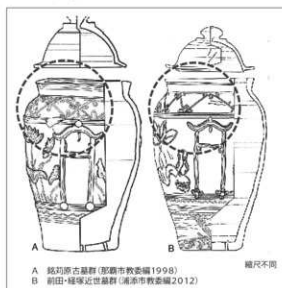
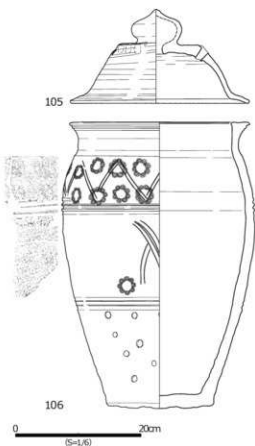


図4.53. 23号墓出土遺物 (2)

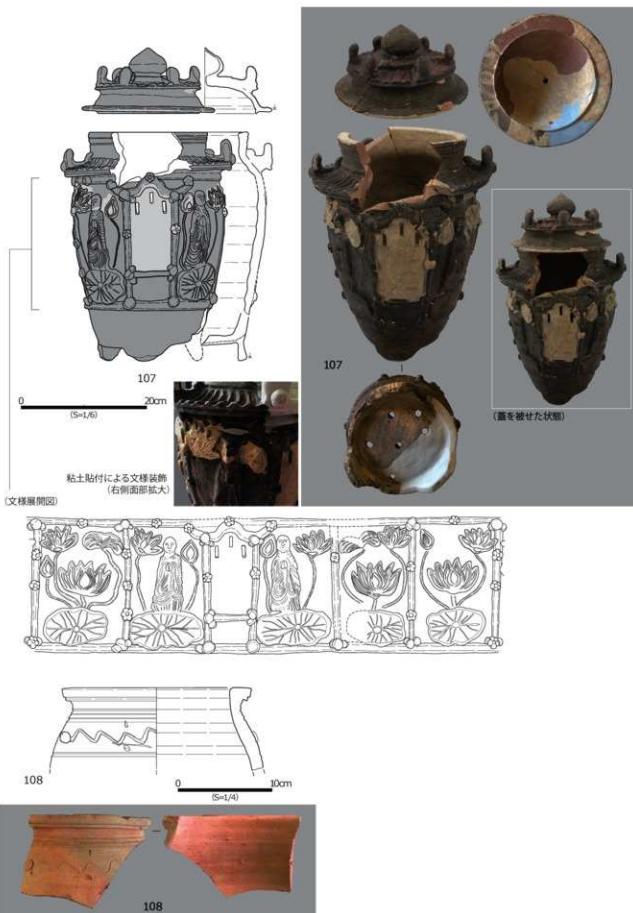


図4.54. 23号墓 出土遺物 (3)

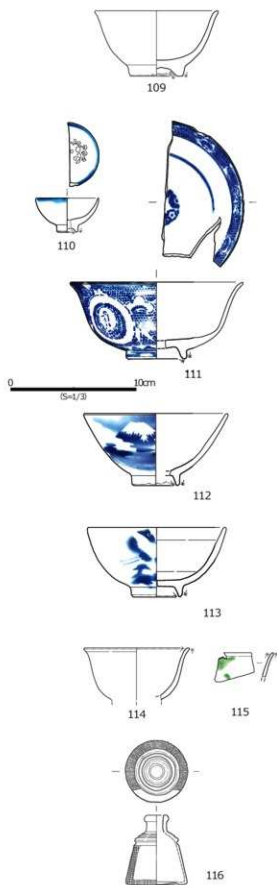


图4.55. 23号墓 出土遗物 (4)

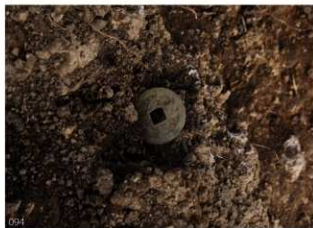


写真4.23. 23号墓 遺物出土状況

000. 墓周辺 遺物出土状況
000. 銭貨出土状況

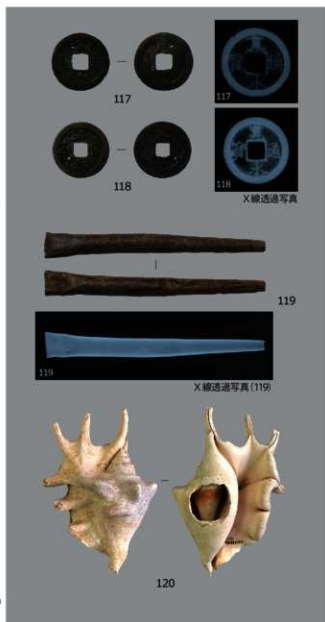
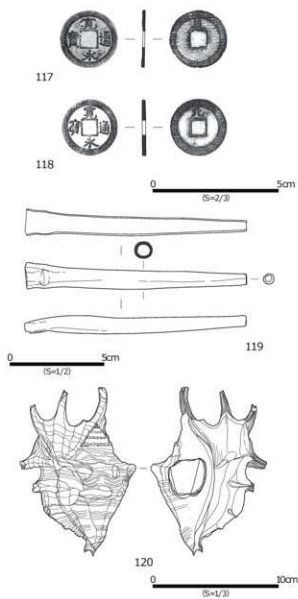


図4.56. 23号墓 出土遺物 (5)

第10節 24号墓

(遺構) 調査区の南端、23号墓南側に隣接する位置で確認した堀込墓である。墓口に角柱石材を積み上げて閉塞されていたが、墓室内の蔵骨器は移された「空き墓」の状態であった。墓口には礎が並べられ、墓室内は墓

外より一段低くなる。墓室内の天井高は約0.7～0.8m。床土を除くと、床の範囲に石灰岩礎が敷かれた状況を検出した。墓前庭部も平場を意識して平坦に整地されている。(遺物) 墓外で無頭甕形(ボージャー形)とみられる蔵骨器破片、本土産近現代陶磁器を少量採集している。

表4.19. 24号墓 遺構観察表

位置情報	座 標 X: 50608.693 Y: 43462.271 海拔高 H: 8.120m
構築場所(立地)	南側丘陵先端部
遺構種類(分類)	堀込墓
遺構詳細	規模 (墓口) 幅0.82m/高さ0.60m (墓室) 幅1.32m/奥行0.88m/高さ(天井高) 0.86m
	特徴 露積石灰岩岩盤を掘り込み、立方体状に墓室を形成。墓室床面高は墓口よりやや下がる。墓室内床は岩盤を平坦に削平後、石灰岩礎を面状に敷く。閉塞口には角柱石材を使用しており、墓口には閉塞石を留める(集める)ための礎が列状に配置している。
出土遺物	(墓室内) — (墓外) 専用蔵骨器、本土産近現代磁器
備 考	墓口が閉塞された状態だが、墓室内は空き墓の状態。

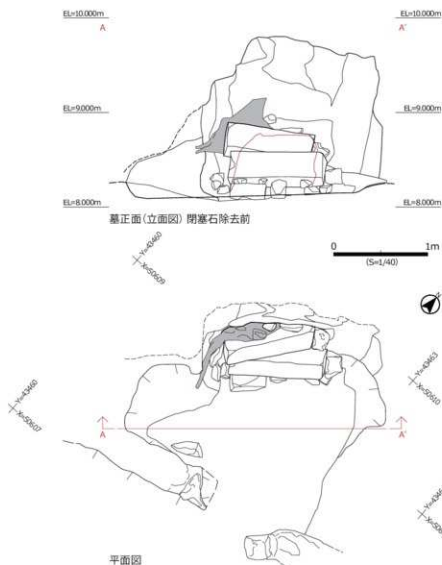
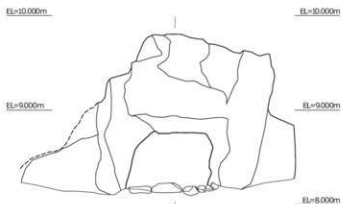
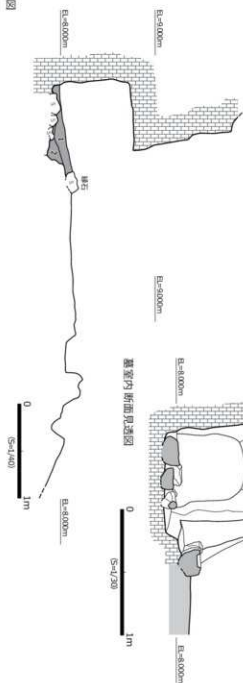
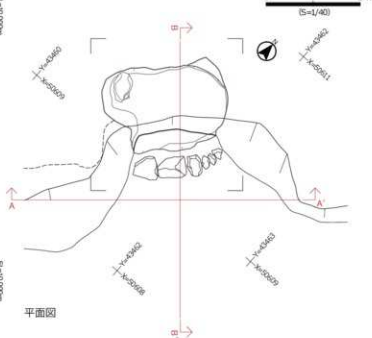


図4.57. 24号墓 (墓正面・平面図) 石積除去前

土層断面図



墓正面(立面図) 閉塞石除去後



墓室内床礎検出状況

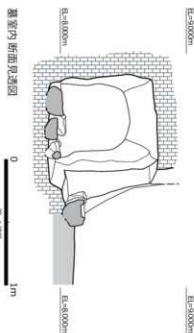


図4.58. 24号墓(墓正面・墓室平面・断面図各種)



写真4.24. 24号墓

095. 24号墓確認時現況
096. 遺構検出状況(閉塞石除去前)
097. 墓口付近表土除去後
098. 閉塞石除去後
099. 閉塞石除去後の墓室の様子
100. 半甕による墓室内土層断面
101. 半甕による墓室内土層断面
102. 墓室内敷石検出状況

第11節 その他の遺構

(01号墓・05号・25号・26号遺構)

前節までの遺構以外の墓や人為的痕迹が示唆される遺構について以下にまとめて報告する。

(01号墓)

調査区北端の丘陵斜面掘地で確認した掘込墓である。当該箇所は計画路線の外にあり現状保存が叶うことから発掘調査の対象外とし、確認時点現状の写真記録及び遺構観察をおこなった。

岩盤露頭面に掘り込まれた横穴の規模(寸法)は、幅約0.8m×高さ約0.6mと狭く、被葬者人骨や蔵骨器等の遺物もみられないことから、あるいは造墓途上の掘削痕の可能性も考えられる。

(05号遺構)

調査区北側、01号墓に近い北側斜面地掘付近で確認した遺構である。03号遺構と同様な礫集中(集石)があり、礫を除くすると岩陰内が平坦に整えられていた。

あるいは墓移転に伴って岩陰用墓の石積を崩したものを集めた可能性もあり得るが、被葬者人骨や蔵骨器等の遺物は得られていない。

(25・26号遺構)

調査区南端、23号墓・24号墓が造営された露頭石灰岩岩盤の反対側で確認した遺構である。岩盤露頭面に掘削痕と思しき不自然な形状がみられることから埋没した掘込墓を想定、慎重に掘削を行った。

(25・26号遺構 つづき)

墓としての利用痕跡を直接証し得る人骨や専用蔵骨器等を得られていないが、人為的な岩盤掘削痕を認める(掘削痕跡の解釈として石切場?の可能性)。

26号遺構周辺で陶磁器類(沖繩産無釉陶器・本土産近現代磁器)、シャコガイ科ほか貝類遺体を得ている。

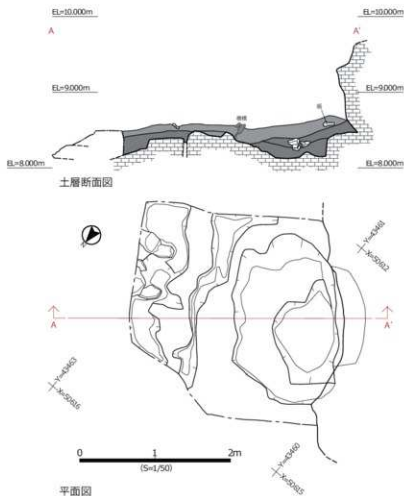


図4.59. 26号遺構 (石切場痕?)

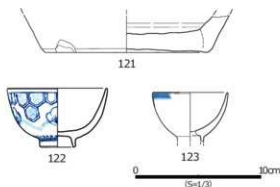


図4.60. 26号遺構 出土遺物





写真4.25. 01号墓、05号遺構、25・26号遺構

103. 01号墓 (墓口周辺精査後) 104. 01号墓 墓室内
105. 05号墓 墓右側出土状況 106. 05号墓 墓室内精査後
107. 25・26号遺構周辺の立地 108. 26号遺構周辺精査後 (掘削前)
109. 26号墓 半截による土層確認 110. 26号遺構周辺 採集遺物

表4.20. 出土遺物観察表 (1)

図版 番号	出土 地点	遺物種類	器種 部位	分類	法量 (cm・g)	観察所見	備考等
図4.3 001	03号遺構 集石内	中国産陶器 (紀伊陶器)	壺 胴部	—	口径一 器高一 底径一	小破片のため器形不詳。素地は灰黄褐色でやや緻密。 内外面施釉 (褐オリーブ褐色)。	
図4.5 002	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	身 口一胴	ボージャリー形 (無頸甕形)	口径 (23.2) 器高一 底径一	やや小型で肩が張る器形。窓付形状は扁平形で、透かし窓は1方2方。 口縁下及び肩付近に数条の縦線。 暗赤褐色の素地に白色粒・赤褐色粒が少量混入。 窓付近の内面には窓枠を貼り付けた痕跡が残る。口唇部には焼成工程時の枝サング目跡が残る。	
図4.5 003	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	身 口一肩付近	ボージャリー形 (無頸甕形)	口径 (25.0) 器高一 底径一	肩が張る器形。窓付形状は扁平形で、透かし窓は古式の特徴。 口縁下に数条の縦線がめぐる。窓枠上に黒点あり。 赤褐色の素地に1mm程度の白色粒が少量混入。	18世紀代
図4.5 004	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	身 口一肩付近	ボージャリー形 (無頸甕形)	口径 (23.0) 器高一 底径一	肩が張る器形。窓付形状は扁平形で、透かし窓は1方2方。 口縁下に数条の縦線。 赤褐色の素地に1mm程度の白色粒が少量混入。口唇部に焼成工程時の枝サング目跡が残る。	18世紀代
図4.5 005	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	身 口一胴	ボージャリー形 (無頸甕形)	口径 (26.2) 器高一 底径一	肩がやや張り、寸胴状味に胴に移行する器形。窓付近を欠き窓枠の形状等は不詳。口縁下に2条、胴に1条ずつの縦線が計3箇所めぐる。 赤褐色の素地に白色粒が混入。内外面ともに磨面・磨面ナシ調整。	
図4.5 006	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	身 胴(窓付近)	ボージャリー形 (無頸甕形)	口径 (33.0)	肩が張る器形と推定。窓付形状は扁平形で、透かし窓は1方2方。 窓付近の透かし窓は1方2方。窓枠の両側に縦線と推される線形の波線文。磨面あり。 赤褐色の素地に白色粒・赤褐色粒が少量混入。	
図4.6 007	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	身 胴下半一底	ボージャリー形 (無頸甕形)	器高一 胴径一 底径 22.9	口縁部一肩上半を欠き、器形や窓枠の形状は不詳。胴部に縦線による 蓮華文。外底面の立ち上がり付近に縁付近が認められる。底面に穿孔 5ヶ所。 赤褐色の素地に白色粒・黒色粒が少量混入。	
図4.6 008	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	身 胴下半一底	ボージャリー形 (無頸甕形)	器高一 胴径一 底径 (22.6)	口縁部一肩上半を欠き、器形や窓枠の形状は不詳。外底面の縁付近が 認められる。底面に穿孔あり。 赤褐色の素地に1mm程度の白色粒が混入。	
図4.7 009	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	身 胴	ボージャリー形 (無頸甕形)	口径一 器高一 底径一	胴部破片で器形不詳だが肩が張る器形か。 磨面による蓮華文。磨面も認められる。 赤褐色の素地に白色粒・赤褐色粒が少量混入。	18世紀代?
図4.7 010	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	身 胴	ボージャリー形 (無頸甕形)	口径一 器高一 底径一	胴部破片で器形不詳だが肩が張る器形か。 磨面による蓮華文。磨面も認められる。 赤褐色の素地に白色粒・赤褐色粒が少量混入。	
図4.7 011	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	蓋 口一胴部	ボージャリー形 (無頸甕形)	器高 15.8 体部高 10.1 口径 30.6	笠形。提台は1段。提の形状は宝珠形で有孔。体部外周に横線波状文。 蓋内面に銘文は認められず。 赤褐色の素地に白色粒・黒色粒が少量混入。	
図4.7 012	06号墓 埋土	陶製専用 蔵骨器	蓋 口一胴部	ボージャリー形 (無頸甕形)	器高一 体部高 10.7 口径 28.6	笠形。提台は1段。提の形状は宝珠形で有孔。体部外周に横線波状文。 提台と体部の間に溝。蓋内面に銘文は認められず。 赤褐色の素地に白色粒を混入。	
図4.7 013	06号墓 埋土	石器	石斧	—	残存長 9.0 残存幅 5.0 残存厚一	刃部を欠く破損品 (保存率3/4程度)。残存重量 236g。磨面あり。 刃部周囲に比べ基部幅が狭く、角形の形状。 基部の一部に製作時の打痕。裏面割面があるが、残存部は比較的丁寧な研削加工を確認できる。	高田(丘陵上方)の 先史時代遺跡に 所属 (高田161によるものと推定)。
図4.13 014	08号墓 墓室内	搬入陶器	甕α鉢? 胴部	—	口径一 器高一 底径一	縦線よりなり薄手 (器厚4~6mm程度)。 器外周に口縁形成時の格子目文。内面には同心円文 (当て具) が明確 に残る点が特徴的。 器内外ともに黒褐色 (75YR3/2~10YR3/2)。素地は灰黄色 (10YR6/2)。 で磨面。右端部粒白色粒が混入。胎土の艶ありとみられる筋もみられる。 磨面扁平度 (表裏に類似) あるいはその影響を受けた肥前産陶器 (17 世紀中葉~後半) の可能性。	015・016と同一 個体と推定。 16世紀末~17世 紀後半の範囲内か。
図4.13 015	08号墓 墓室内	搬入陶器	甕α鉢? 胴部(把手)	—	口径一 器高一 底径一	把手 (横耳) と推定。把手の存在から連動容器 (把手付きの甕?鉢?) と推定。把手部は器厚1cm程度あるが器厚は薄手。 器内面に口縁形成時の当て具。外周にも工具痕がらしき痕跡あり。 素地は緻密で色調一。混入物等の特徴も014に共通。	014・016と同一 個体と推定。 16世紀末~17世 紀後半の範囲内か。
図4.13 016	08号墓 墓室内	搬入陶器	甕α鉢? 底部	—	口径一 器高一 底径一	014・015と同一個体の底部。底部厚は5~6mm程度。 素地は黒褐色 (10YR5/1)・灰黄褐色 (10YR5/2) の素地が層状をなし (胎 土の艶あり)。白色粒粗粒が混入。内外面とも磨面 (内底面一部無磨面)。	014・015と同一 個体と推定。 16世紀末~17世 紀後半の範囲内か。
図4.13 017	08号墓 墓室内	シャコガイ 貝殻	—	—	残存長 16.9 残存幅 11.0 残存厚一	残存重量 1240g。一部欠損 (残存率1/2程度)。貝殻表面にあはたの 虫食い痕 (ヘビガイ) から死生の状態が採取されたか。葬送儀礼に伴い 海岸から持ち込まれた可能性。	
図4.16 018	13号墓 周辺築集	陶製専用 蔵骨器	身 胴下半一底	有頸甕形 (マンガン釉)	口径一 器高一 底径 17.6	外周に脚を3個付するタイプと推定。肩上半部を欠き、器形や窓門形状 は不詳。胴下半の下位文様帯は3条1単位の高位文様と横線波状文を交 互に並列。窓門を中心とする中位文様帯の一部である磨面文様 (草葉 等の磨面文) を備え。 底面に半板竹窓状工芸による穿孔あり (保存面で10ヶ所)。	
図4.19 019	15号墓 墓室内	銭貨 (寛永通寶)	元形	(※上面1枚目) 寛永通寶(新)	外径 2.3 孔径 (中央) 0.61 × 0.62 厚さ 0.15	銭貨8枚が積み重なった状態で付着。紐を通した状態で磨面したか。 重量は25.88g (8枚分)。 上面1枚目には寛永通寶(新) でいせゆる二銭通。背文文字なし。 すべて寛永通寶かは不詳。	イセ北側床面近く

表4.21. 出土遺物観察表(2)

図版 番号	出土 地点 層	遺物種類	器 種 部 位	分類	法量 (cm・g)	観察所見	備考等
図419 020	15号墓 墓室内	銭貨 (寛永通寶)	完形	(※上面1枚目) 寛永通寶(新)	外径 2.5 孔径 (タテ×ヨコ) 0.55×0.53 厚さ 0.15	銭貨11枚が積み重なった状態で付着(塊状側に数枚剥離)。紐を通した 状態で彫削したか。重量は 36.66g (11枚分)。 上面1枚目は寛永通寶(新) でしやまゆる二朗通。背文字なし。 すべて寛永通寶がほぼ同様。	イケ北側床面近く
図419 021	15号墓 墓室内	銭貨 (寛永通寶)	完形	寛永通寶(新)	外径 2.4 孔径 (タテ×ヨコ) 0.59×0.55 厚さ 0.15	重量 33.35g。新寛永。しやまゆる二朗通。背文字なし。	イケ北側床面近く
図419 022	15号墓 墓室内	銭貨 (寛永通寶)	完形	寛永通寶(古)	外径 2.5 孔径 (タテ×ヨコ) 0.51×0.53 厚さ 0.15	重量 39.93g。古寛永永宝銭か。銭文は錆で不判明。背文字なし。 縁の一部欠損あり。	イケ南側床面近く
図419 023	15号墓 墓室内	銭貨 (寛永通寶)	完形	寛永通寶(古)	外径 2.5 孔径 (タテ×ヨコ) 0.58×0.6 厚さ 0.15	重量 25.8g。古寛永永宝銭か。銭文は錆で不判明。背文字なし。 孔良好。	イケ南側床面近く
図419 024	15号墓 墓室内	銭貨 (寛永通寶)	完形	寛永通寶(新)	外径 2.5 孔径 (タテ×ヨコ) 0.62×0.61 厚さ 0.15	重量 34.98g。新寛永とみられる。銭文は錆で不判明。背文字の有無も不明。	イケ南側床面近く
図419 025	15号墓 墓室内	金属製品 (簪)	簪・身部	—	頭部長 1.3 首部長 5.0 身部長 9.7	完形。重量 11.3g。銅製か。耳かきに似た形状(しやまゆる耳かき型)。 首部は断面方形。身部(平部) は六角錐で先端が縮める形状。	イケ南側床面近く
図420 026	15号墓 墓室内	金属製品 (簪)	簪・身部	—	頭部長 1 首部長 1 身部長 4.4	頭・首部まで欠損。残存重量は 4.0g。一般的な簪の形状分類でいう花形。 首部の断面は五角形。身部(平部) は断面方形で、先端部が四角錐の形状。	イケ北側床面近く
図420 027	15号墓 墓室内	煙管 (簪首)	簪首 完形	石製簪首	火口部内径 1.1 簪子接続孔 内径 0.75	霽字煙管の簪首で石製。重量 14.0g。しやまゆるの鋭形で、吊下7粒が通 せるよう加工・穿孔。表面は丁寧に研削加工。	イケ北側床面近く
図420 028	15号墓 墓室内	煙管 (簪首)	簪首 完形	石製簪首	火口部内径 1.5 簪子接続孔 内径 1.0	霽字煙管の簪首で石製。重量 46.0g。全体に粗雑な研削加工で研磨は せず自然面が残る。	イケ北側床面近く
図420 029	15号墓 墓室内	煙管 (簪首)	簪首 完形	石製簪首	火口部内径 1.4 簪子接続孔 内径 1.0	霽字煙管の簪首で石製。重量 15.0g。しやまゆるの鋭形で、紐通しに銅 製の簪が掛けられ 6cm 程度残る。やや磨耗するが全体に丁寧に研削加 工。	イケ北側床面近く
図420 030	15号墓 墓室内	煙管 (簪首)	簪首 完形	陶製簪首	全長 4.6 火口部内径 1.4 簪子接続孔 内径 1.0	無釉陶器製で、重量は 170g。身部分は断面七角形。火口部は八角形。 火口内口成形時の加工痕あり。火口内には埋付軸あり。 内面に赤褐色の土質(5YR4/3) の素地で、一部に自然面が残る。	イケ南側床面近く
図420 031	15号墓 墓室内	ガラス製品	蓋 完形	—	蓋高 5.5 体部高 2.7 体部径 7.8 口径 7.4	キャンディボットの蓋。重量は 136g。 蓋体部に「SHIMADA OSAKA・JAPAN」の文字(大阪島田硝子製作所)。 側面に「SGF」のマークが刻印される。 全体は透明ガラスだが外面一部分が曇りガラス状。下 部(口) に向かって わずかに窄まる。	昭和初期か イケ北側
図421 032	15号墓 墓周辺 (表裏)	陶製専用 威骨器	身 口・底	ボージャー形 (無頸変形)	口径 25.8 器高 48.6-50.1 底径 20.5	肩から胴上半がやや張る器形。窓枠付近をくくが窓枠上の窓印を認める。 口縁下から胴上半(窓枠の位置高)にかけて数条の縦線。口唇部には、 焼成工程時の枝サグ目跡が残る。外底面立ち上がり部に近い縁付近が 凹み取られる。底面に浮彫穿孔。5ヶ所。 灰褐色の素地に1~2mm 程度の白色粒が混入。	
図421 033	15号墓 墓周辺 (表裏)	陶製専用 威骨器	身 口・胴上半	ボージャー形 (無頸変形)	口径 28.6 器高 — 底径 —	肩がやや張る器形。窓枠の形状は腰版直形で、張り出しの強い造り。窓 枠の造りや窓は窓1方2方。口縁下及び胴上半窓枠位置の高さに縦線。 窓枠の側・縁部にはなる素地。口唇部に焼成工程時の枝サグ目跡。 白色の素地に白色粒・黒色粒が少量混入。輪軸3回転子だが、内面 に窓枠が掛けた時の変形指痕も残る。	17世紀末~ 18世紀前半
図422 034	15号墓 墓周辺 (表裏)	陶製専用 威骨器	身 口・胴付近	ボージャー形 (無頸変形)	口径 (24.0) 器高 — 底径 —	ややJ型で、肩の張り強い器形。窓枠上部(底部分)のみ残存しており、 窓枠形状は平直形。窓枠は張り出し強い造り。窓枠上に粘土補修痕あり。 内面に赤褐色の素地に白色粒を微量混入。	
図422 035	15号墓 墓周辺 (表裏)	陶製専用 威骨器	身 口・胴付近	ボージャー形 (無頸変形)	口径 (22.8) 器高 — 底径 —	ややJ型で、肩がやや張る器形。窓枠付近を欠き窓枠の形状は不詳。 口縁下に2条の縦線。口唇部に焼成工程時の枝サグ目跡が残る。 暗赤褐色の素地。	
図422 036	15号墓 墓周辺 (表裏)	陶製専用 威骨器	身 胴(窓枠部)	ボージャー形 (無頸変形)	口径 — 器高 — 底径 —	平直形の窓枠内に達かし窓は窓1方1方。窓枠の張り出し強い。内面には 窓枠が掛けた時の変形指痕が残る。窓枠あり。 内面に赤褐色の素地に白色粒・赤色粒・黒色粒が微量混入。	17世紀末~ 18世紀前半
図422 037A	15号墓 墓周辺 (表裏)	陶製専用 威骨器	蓋 ほぼ完形	火葬用 家形(加頸形)	棟長 — 器高 — 長さ — 析長 —	蓋正面に獅子5体(大棟及び降梯部分)・法師像1体の粘土貼付による 装飾。白化粘土塗布後、全体にコリリト粒(黒質、装飾部等を除く)(黄) や緑釉で彩色後、透明釉施す。蓋内面は黒質。白土塗布もやや残る印象。 素地は密で、5mm 程度の発泡剤が少量混入。蓋内に粘着痕あり。	(鎌倉 前期II)/ 1960年2月5日 死亡
図422 037B	15号墓 墓周辺 (表裏)	沖繩産 施釉陶器	身 胴(窓枠部)	火葬用 家形(加頸形)	口径 — 器高 — 底径 —	小型の家形(加頸形)で火葬用。正面に唐皮馬形の扉門。扉門脇及び 側面に法師像・蓮花文等の粘土貼付による装飾。蓋と同様。白化粘 土塗布後、コリリト粒・施釉・緑釉を施す。彩色後、全体に透明釉を施 粘するが蓋内面は素地。素地に数mm程度の黒色粒・白色粒を少量混入。	(鎌倉 前期II)

表4.22. 出土遺物観察表(3)

図版 番号	出土 地点 層	遺物種類	器種 部位	分類	法量 (cm・g)	観察所見	備考等
図4.23 038	15号墓 墓周辺 (表採)	沖縄産 無釉陶器	碗 底部	—	口径— 器高— 底径7.0	高台は回転削り成形。内外面ともに白化粘土・透明釉を施した後、高台量付及び内底面は蛇の目輪刺ぎ。素地はにじみ・黄褐色(10YR5/4)。	
図4.23 039	15号墓 墓下・周辺 表採	中国産陶器 (磁釉陶器)	壺 胴上半～底	—	口径— 器高— 底径15.0	大型の壺。肩部が大きく膨らみ(最大径40.6cm)。胴下半から底部にかけて収まる不安定な壺形で、胴下半は壺腹状に丸みよく残る。器外面全面及び胴部内面・黒緑～暗褐色釉を施後、胴下半の内面は黒緑・黄褐色の素地には磁釉が混入。 (口頸部を欠く) 器形が不明確から、短頸で断面方形状の口縁部に特徴づけられる無耳蓋と推定。出土遺物中で年代が最も古と考えられる遺物。転用蔵骨器として使用された蓋然性が強い。	瀬戸まか2007の 中国陶器分類 15世紀前半～ 16世紀前半
図4.23 040	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 口～胴上半	ボジャー形 (無頸壺形)	口径(26.4) 器高— 底径—	肩が張り胴に寸割状の肩へ移行する壺形。器外は扁平形で張り出しの強い造り。器内に1方2方の透かし窓。口縁下に2条、胴上部(窓付位置の高さ)に1条の縦線。 にじみ・赤褐色の素地に白色・赤色粒を少量混入。	
図4.23 041	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 口～胴上半	ボジャー形 (無頸壺形)	口径(22.0) 器高— 底径—	肩の張りやや弱く、胴上半(窓付位置の高さ)で張る壺形。やや小型。器外は壺腹状とみられ、張り出しの強い造り。口縁下に2条、窓付位置に1条の縦線が2ヶ所。器内面の透かし窓は左半部の円孔2個(1方4円が)。窓付部は縦長の直線文、曲線、直線文ともに波線は細く浅め。にじみ・赤褐色の素地に1mm程度の白色粒を少量混入。	
図4.23 042	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 口～胴付近	ボジャー形 (無頸壺形)	口径(23.5) 器高— 底径—	やや小型で、肩が張る壺形。器外は壺腹状で、張り出しの強い造り。器内に1方2方の透かし窓。口縁下に数条、窓付位置に1条の縦線。窓枠上に黒印あり。口唇部は地成工程時の枝サンゴ印跡が残る。赤褐色の素地に2mm程度の黒色粒、1mm程度の白色粒を少量混入。	
図4.23 043	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 口～胴付近	ボジャー形 (無頸壺形)	口径(29.0) 器高— 底径—	やや小型で、肩が張る壺形。器外は壺腹状で、張り出しの強い造り。窓付の大半を欠き、透かし窓の配置も判別できない(1方2方)。口縁下と窓付位置に横長の直線・波線。素地は赤褐色の素地に白色粒少量混入。	
図4.23 044	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 口～胴上半	ボジャー形 (無頸壺形)	口径(24.0) 器高— 底径—	小型で肩の張り強い壺形。窓付付近を欠き、窓の形状不詳。口縁下及び胴上半(窓付位置の高さ)に数条の縦線。 内外面ともに壺腹状に張り付いたが、外面・縦・斜位方向の滑り目残る。	
図4.24 045	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 胴(窓付近)	ボジャー形 (無頸壺形)	口径— 器高— 底径—	窓の形状は扁平形で、張り出しの強い造り。窓内面の透かし窓は1方2方。窓の周囲は縦線による直線文。肩が張る壺形と推定。赤褐色の素地に白色粒が少量混入。	17世紀末～ 18世紀前半
図4.24 046	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 胴部	ボジャー形 (無頸壺形)	口径— 器高— 底径—	窓の形状不詳。口縁下及び胴上半(窓付位置の高さ)に配する縦線には縦線による直線文・肩まやや張る壺形が。赤褐色の素地に白色粒・黒色粒・褐色粒が少量混入。	17世紀末～ 18世紀後半
図4.24 047	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 胴(窓付近)	ボジャー形 (無頸壺形)	口径— 器高— 底径—	窓の形状は扁平形で、張り出しは弱い造り(時期的には新しいが)、窓内面の透かし窓は1方2方。胴部縦線1条あり。肩の張り強い壺形と推定。肩の張り強い、寸割状の肩へ移行する壺形と推定。赤褐色の素地に白色粒・黒色粒が少量混入。	18世紀後半
図4.24 048	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 胴(窓付近)	ボジャー形 (無頸壺形)	口径— 器高— 底径—	窓の形状は扁平形で、張り出しは弱い造り(時期的には新しいが)、窓内面の透かし窓は1方2方。窓の周囲は縦線による直線文も一部残存。肩の張り強い、寸割状の肩へ移行する壺形と推定。赤褐色の素地に1mm程度の白色粒を少量混入。	
図4.24 049	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 胴下半～底	ボジャー形 (無頸壺形)	口径— 器高— 底径20.0	外底面の立ち上がり部に近い縁付近が凹み入れている。底面に円形穿孔5ヶ所。 にじみ・赤褐色の素地に白色粒・黒色粒・赤色粒が少量混入。	
図4.24 050	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	身 胴下半～底	ボジャー形 (無頸壺形)	口径— 器高— 底径22.6	外底面の立ち上がり部に近い縁付近に凹み入。底部には口縁に比べて薄手。底面に円形穿孔あり(底面穿孔数は約1/2で、円形穿孔5ヶ所)。にじみ・赤褐色の素地に白色粒・黒色粒・褐色粒が少量混入。	
図4.24 051	15号墓 墓下・周辺 表採	転用蔵骨器 (沖縄産 無釉陶器)	身 胴下半～底	—	口径— 器高— 底径(21.0)	底面から胴部への立ち上がり具合から最大径は胴上半に位置する壺形が。内面には叩き窓。底部付近には工具ナメ調整痕。素地はにじみ・黄褐色。白色粒を少量混入。 蔵骨器転用品か。	17世紀後半～末
図4.25 052	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	蓋 口～縁部	ボジャー形 (無頸壺形)	器高13.0 体部高8.9 口径(30.4)	笠形。縁の形状は宝珠形で、有孔(空間)。縁台は1段。段と体部の境及び体部上部に数条の縦線をめぐらす。赤褐色の素地に白色粒・黒色粒を少量混入。	
図4.25 053	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	蓋 口～縁部	ボジャー形 (無頸壺形)	器高— 体部高8.6 口径(30.6)	笠形。縁部分を欠くが宝珠形で、縁台は2段以上。段及び口縁と体部の境及び体部上部に縦線。体部に縦線波状文をめぐらす。口縁部口縁線。にじみ・赤褐色の素地に白色粒・黒色粒を少量混入。	
図4.25 054	15号墓 墓下・周辺 表採	陶製専用 蔵骨器	蓋 体部～縁部 外反縁部 (マンガン鉢)	有頸壺形 外反縁部	器高— 体部高— 口径—	鉢形で膨らみをもつ体部。縁の形状は壺腹状で有孔(空間)。縁台は2段。縁部を欠く。外面にマンガン釉施。内面に回転ナメ調整痕。粘土を張り付けたような痕あり。 内面・明赤褐色の素地に白色粒が少量混入。	
図4.25 055	15号墓 墓下・周辺 表採	沖縄産 無釉陶器 (蔵骨器 転用品?)	水甕 口～胴付近	—	口径(32.8) 器高— 底径—	断面縦長の方形状に肥厚する口縁は粘土を折り曲げ、余った粘土を削ぎ落とす成形。肥厚部下位に2条。縁部と胴部の境付近に5～6条の縦線。その下に縦線波状文がめぐる。 にじみ・赤褐色の素地に白色粒・黒色粒を少量混入。 転用蔵骨器の蓋然性も高と考えられる。	

* 陶器分類は、瀬戸まか2007の「4世紀陶器(地陶陶器)」を参考。

瀬戸まか・仁王浩司・玉城 晴・宮城弘樹・安田開亮・松原哲志 2007「沖縄における貿易品陶器研究」『沖縄学文研究』5 沖縄県立琉球文化財センター

表4.23. 出土遺物調査表 (4)

図版番号	出土地点	遺物種類	器種部位	分類	法量 (cm-g)	観察所見	備考等
図4.25 056	15号墓 庫下・周辺 表探	沖縄産 無胎陶器 (蔵骨器 転用品?)	水甕 胴-胴上半	—	口径— 器高— 底径—	口縁~胴部を欠ぐが、055と同様な器形・口縁部形態と推定される。 胴部と胴の境付近に5~6粒の黒色粒、胴部に2条連続の横位突帯がめぐり、胴部と突帯の間を充填するように縦指状文と横線文を交互に施文。素地は赤い。赤褐色で白色粒を微量混入。 蔵骨器転用品の蓋形性を強く考えられる。	
図4.25 057	15号墓 庫下・周辺 表探	沖縄産 無胎陶器	鉢 口-胴下半	—	口径 (20.6) 器高— 底径—	直し字状に折れる器口縁。胴上部の最大径位置に横位文の突帯1条をめぐらす。器面内外ともにあはれた状の細い孔 (赤褐色に気泡破裂痕)。素地は赤い。赤褐色で白色粒・褐色粒や微細破が少量混入。	
図4.25 058	15号墓 庫下・周辺 表探	沖縄産 施胎陶器	德利 胴部-底	—	口径— 器高— 底径 7.5	口縁~胴部を欠損。胴部下半 (器口) が膨らみ器形。外底面は凹状溝で斜めに彫り出されている。 胴部・胴の境付近に凹状溝より5条の横線。 器外面は器口付近まで黒色粒を施胎 (内面が無胎であることから流し掛け)。外底面も施胎。 素地は褐色 (TSYR44)。黒色粒が微量混入。	
図4.25 059-A	15号墓 庫下・周辺 表探	火葬用 蔵骨器	蓋 完形	—	口径— 器高— 底径—	磁器製の貯骨容器 (骨甕) の蓋。端はなし。 全底施胎だが、肩に接する部分 (肩から「き」の外側部分) は露胎。	
図4.25 059-B	15号墓 庫下・周辺 表探	火葬用 蔵骨器	身 口-底 (円形)	—	口径— 器高— 底径—	磁器製の貯骨容器 (骨甕)。円筒状の器形。 器外面施胎するが口器部及び外底面は無胎。 正面中央に位牌の図柄。裏側に「永往社 / 摩訶菩提 第三二七二號 遺骨容器」の文字。	
図4.27 060	17号墓 墓周辺 (表探)	沖縄産 無胎陶器	德利 胴-胴下半	—	口径— 器高— 底径—	口縁部を欠損。胴部付近が膨らみ器形。胴部と胴の境付近に凹状溝より7条の横線。内外面に黒色の器口による器形痕 (凹状ナデ調痕)。素地は赤い。赤褐色 (SYR54)。黒色粒が微量混入。	
図4.35 061	19号墓 墓室内2層 (シルヒラシ)	陶製専用 蔵骨器	蓋 履装装飾 (鉢の尾節)	陶製家形 (微脱形)	横長— 器高— 器口— 底長— 折長—	素焼の陶製家形 (微脱形) 蔵骨器蓋の履装装飾/破片。鉢の尾節の部分。 縁や腹/折れを縁取り表現。 素地は褐色で白色粒・黒色粒が微量混入。	
図4.35 062	19号墓 墓室内3層 (正面側)	陶製専用 蔵骨器	蓋 履装装飾	陶製家形 (微脱形)	横長— 器高— 器口— 底長— 折長—	素焼の陶製家形 (微脱形) 蔵骨器蓋の履装装飾/破片。入母屋形の器口 (履装部分) の破片で、獅子頭を模した。061と同程度の可能性。 赤褐色の素地に黒色粒 (やや多)・白色粒 (少) や微細破を混入。	
図4.36 063	19号墓 墓前前方 1層	陶製専用 蔵骨器	身 口-底	ボージャー形 (無頸雙形)	口径 22.2 器高 46.0/47.1 底径 19.7	やや小・器口がやや膨らみ器形。器口形状は半圓形で張り出しの強。直し器口内の透かし窓1方2方。口縁下に2条。最大径が位置する肩付近 (器口位置) に1条の横線。器口の周りに縁取りによる蓮華文。器口下に葉形の一部分。口器部と底面/器口の接する部分に横線が残る。外底面の縁に面取り。底面に口器部穿孔あり (残存面4ヶ所)。器外面に輪転工具ナデ・ナデ調痕。外面にあはれた気泡痕多く残る。赤褐色の素地に白色粒・褐色粒が微量混入。	墓移葬に伴う 蔵骨器等一統廃棄。 17世紀末~ 18世紀前半が
図4.37 064	19号墓 墓前前方 1層	陶製専用 蔵骨器	身 口-底	ボージャー形 (無頸雙形)	口径 31.4 器高 53.5/47.7 底径 22.6	やや口器味で胴の張り強く、胴から底部までストレート気味に移行する器形。口器上に瘤状突起が3ヶ所残る。器口形状は半圓形で、張り出し強い。口縁下に3条。胴上部(器口位置)に1条の横線2ヶ所。外底の縁に面取り。底面に口器部穿孔5ヶ所。 内外面に輪転工具ナデ・ナデ調痕。外面にあはれた気泡痕多く残る。赤褐色の素地に白色粒・褐色粒が少量混入。	“ 063より時間的に 新しい18世紀代。
図4.37 065	19号墓 墓前前方 1層	陶製専用 蔵骨器	身 口-底	有頸雙形 (マンガン釉)	口径 26.0 器高 46.0 底径 18.6	直し字状に膨らむ口縁は直立し、胴部がやや膨らみ器形。 胴部・胴の境及び器口の下計3ヶ所に突帯をめぐらせ文様帯を区画。 器口は粘土貼付による履装装飾。器口内の透かし窓1方。器口にある器口文様帯に粘土貼付及び縁取りによる蓮華文を配置。透かし窓、口縁部周囲に2条の横線。器口文様帯・胴下部文様帯に輪転及び指状文を交互に施文。底面に口器部穿孔あり (底面残存面計5ヶ所)。器外面に輪転から胴下半までマンガン施胎。輪転工具ナデ調痕。 赤褐色の素地に白色粒・褐色粒が少量混入。	“
図4.38 066	19号墓 墓前前方 1層	陶製専用 蔵骨器	身 口-底	有頸雙形 (マンガン釉)	口径 (25.8) 器高 53.0 底径 22.0	直し字状に膨らむ口縁は直立し、胴部が膨らみ器形。 口縁部周囲に2条の横位文様 (凹線)。胴部・胴の境に1条。器口の下に3条連続の横位突帯で文様帯を区画。正面を大きく欠損するが、器口は粘土貼付及び縁取りによる蓮華文を配置。器口内の透かし窓1方2方と推定。器口文様帯には2条単位(二文工具)の斜位横位文様による幾何文。器口文様帯に粘土貼付及び縁取りによる幾何文・蓮華文を配置し、胴下部文様帯には器口文様と同じ二文工具による波状文様を1条めぐらす。底面に口器部穿孔あり (底面残存面計3ヶ所)。外面にマンガン施胎 (口縁部内面まで)。 赤褐色の素地に白色粒・褐色粒が少量混入。	“
図4.38 067	19号墓 墓前前方 1層	陶製専用 蔵骨器	身 口-底	有頸雙形 (マンガン釉)	口径 (29.4) 器高 54.4 底径 21.8	直し字状に膨らむ口縁は直立し、胴部が膨らみ器形。蓋と接する口器上面に幾何的な文様。口縁部周囲に2条の横位文様 (凹線)。胴部・胴の境は凹状溝により段差を形成。器口の上計に2条突帯。器口下に3条連続で文様帯を区画。器口は粘土貼付によるアーチ形。器口内の透かし窓1方2方と推定。器口文様帯には蓮華文。器口にある器口文様帯には蓮華文等を2条単位文様 (二文工具) で施文。器口文様帯は3~5条単位位の横位文様 (凹線)。縦線波状文を交互に配置する。 底面に口器部穿孔あり (底面残存面計6ヶ所。うち1ヶ所は未貫通)。器外面にマンガン施胎 (口縁部内面まで)。 赤褐色の素地に白色粒を少量混入。	“

表4.24. 出土遺物観察表 (5)

図版番号	出土地点	遺物種類	器種部位	分類	法量 (cm・g)	観察所見	備考等
図4.39 068	19号墓 墓庭前方1層	陶製専用 威骨器	身 □～底	有頸変形 (マンガン釉)	口径 273.28.3 器高 54.5-55.2 底径 19.9	逆し字状の扉厚口縁部は外反気味に立ち、肩の張りには微凸。頸部/胴部の場合は連続的で段はみられない(有頸変形と外反変形の中間的形態)。口縁部直下に2条単位沈線(凹線)。頸部/胴部直下に2条単位凹線。扉厚の上下に4条単位凹線で文様帯を区画。扉厚は貼付によるアーチ形で、上下2ヶ所より方形の透かしが施す。 肩部文様帯、扉厚にある頸部文様帯は2条単位沈線(ニ叉状工具)で蓮井文・葉文を施文。胴下部文様帯は胴部直下近まで範囲の広まり、上位から4条・2条・5条の順に沈線(凹線)、帯幅波状文を彫刻で配置。底面及び底面近くの胴部に穿孔孔20ヶ所以上(うち底面は6ヶ所)。底面穿孔孔は円形、側面孔は楕円形状。外面にマンガン釉施(口縁部内面まで)。暗赤褐色の素地に白色粒・黒色粒が少量混入。	墓庭部に伴う威骨器等一括調査
図4.39 069	19号墓 墓庭前方1層	陶製専用 威骨器	身 □～底	外反変形 (マンガン釉)	口径 299 器高 56.4 底径 19.0	逆し字状の扉厚口縁部は微凸に反し、肩も少し張る器形。頸部/胴部の場合は不明瞭・連続的で、068と同様に有頸変形と外反変形の中間的形態。口縁下には2条単位沈線(凹線)。頸部/胴部直下に2条単位、扉厚の上下に3条単位凹線で文様帯を区画。 扉厚は(透かしが施すか施さないか)粘土貼付によるアーチ形、透かし部の配置は不詳(1方2ヶ所)。肩部文様帯、扉厚にある頸部文様帯に2条単位沈線(ニ叉状工具)で蓮井文・葉文を施文。胴下部文様帯は上位から3条・2条・3条の順に沈線(凹線)、帯幅に帯幅波状文を配置。外面に胴が3個付く、底面に穿孔あり(底面残存面9ヶ所)。底面穿孔孔は半月形(半截竹管状)。外面にマンガン釉施(口縁部内面まで)。暗赤褐色の素地に白色粒を少量混入。	"
図4.40 070	19号墓 墓庭前方1層	陶製専用 威骨器	身 □～底	外反変形 (マンガン釉)	口径 28.6 器高 60.0 底径 (20.0)	逆し字状の扉厚口縁部は微凸に反し、肩の張りには微凸。頸部/胴部の場合は不明瞭・連続的にストレートに移行する器形。 口縁下に3条単位の横位沈線(凹線)。頸部/胴部直下付近に2条単位沈線(ニ叉状工具)による波状文。胴部直上付近には4条単位の横位沈線(凹線)をめぐらせ、粘土貼付によるアーチ形を肩門を重なる配置。肩門直上付近は大きく欠け、肩門下の透かし部は不詳。肩門より下位(胴部下文様帯)には2～3条単位の横位沈線(凹線)と2条単位沈線(ニ叉状工具)による波状文を交互に施文。 外面の縁付近は面取りされ、底面及び底面近くの胴部に穿孔あり(底面残存面で2ヶ所)。穿孔孔形状は底面孔・側面孔ともに円形。器外面にマンガン釉施。口唇上平坦面・外面面は露胎。明赤褐色の素地に白色粒・黒色粒を少量混入。	"
図4.40 071	19号墓 墓庭前方1層	陶製専用 威骨器	身 □～底	外反変形 (マンガン釉)	口径 28.8 器高 60.0 底径 (19.0)	逆し字状の扉厚口縁部はやや外反気味で、肩の張りには微凸。頸部/胴部の場合は不明瞭・連続的にストレートに移行する器形。 口縁下に3条単位の横位沈線(凹線)。頸部/胴部直下付近に2条単位の横位沈線(凹線)。胴部直上付近には4条単位の横位沈線(凹線)をめぐらせ、粘土貼付によるアーチ形を肩門を重なる配置。肩門内より内側は円形、肩門の左右下は円形。2、胴部下文様帯は上位から3条・2条単位の横位沈線(凹線)をニ叉状工具による波状文と交互に配置。 外面の縁付近は面取りされ、底面及び底面近くの胴部に穿孔あり(底面残存面で3ヶ所)。穿孔孔形状は底面孔・側面孔ともに円形。器外面にマンガン釉施するが、口唇上平坦面・外面面は露胎。明赤褐色の素地に白色粒・黒色粒を少量混入。	"
図4.41 072	19号墓 墓庭前方1層	陶製専用 威骨器	身 □～底	外反変形 (マンガン釉)	口径 26.5 器高 55.8 底径 (19.0)	微凸な外反口縁部は肩の張りには微凸。胴部にストレートに移行する器形。 肩門より上位に1条の沈線(凹線)、肩門の下位に1条沈線(凹線)とニ叉状工具による波状文を交互に配置。肩門は粘土貼付によるアーチ形で、肩門下に縦位で2個、肩門の左右の下に1個ずつ円形。肩部文様帯には2条単位沈線(ニ叉状工具)で蓮井文・葉文を施文が、肩門がある頸部文様帯は肩門のみの配置。 外面の縁付近は面取りされ、底面及び底面近くの胴部に穿孔あり(底面残存面で4ヶ所)。穿孔孔形状は底面孔・側面孔ともに円形。器外面にマンガン釉施するが、口唇上平坦面・外面面は露胎。明赤褐色の素地に1mm程度の白色粒・黒色粒を少量混入。	"
図4.41 073	19号墓 墓庭前方1層	陶製専用 威骨器	身 □～底	外反変形 (マンガン釉)	口径 34.5 器高 (74.8) 底径 (24.1)	逆し字状の扉厚口縁部はやや外反気味で、肩は強張り肩門の中心付近がやや張る器形。今回調査の威骨器で最大サイズ(推定器高70cm以上)。口縁下に2条単位、胴上(肩門上)に5条単位の横位沈線(凹線)。肩門は粘土貼付によるアーチ形、透かし部の配置は不詳だが肩門の左右下方の隅より円形。肩門文様帯は2条単位沈線(ニ叉状工具)による蓮井文・葉文を施文。胴部直下付近に帯幅波状文と4条単位の横位沈線(凹線)を交互に配置。胴下位には4条単位の横位沈線(凹線)。底面に穿孔あり(底面残存面で計8個)。穿孔孔形状は円形。器外面にマンガン釉施。外面面は露胎。明赤褐色の素地に白色粒・黒色粒を少量混入。	" 器高は図4.40元による推計値
図4.42 074	19号墓 墓庭前方1層	陶製専用 威骨器	身 □～底	外反変形 (マンガン釉)	口径 29.2 器高 55.0 底径 (18.0)	逆し字状の扉厚口縁部は外反気味で、肩は強張り肩門にストレートに移行する器形。口縁下に2条単位の横位沈線(凹線)。頸部/胴部の境付近に1条、肩門の上下に2条単位ずつの横位沈線(凹線)で文様帯を区画。 正面に2条単位沈線(ニ叉状工具)による縦位で帯幅波状文の肩門文、蓮井文等を施文。肩門下には縦位に並ぶ円形2個。 肩部文様帯には計2条単位沈線による蓮井文がめぐり、肩門の下位の胴部下文様帯には2条単位の横位沈線(凹線)、波状文を交互に2段配置し、下位には5条単位の横位沈線(凹線)をめぐらせる。 底面近くの胴下部及び底面に穿孔あり(底面残存面1個、側面に3個)。穿孔孔形状はすべて半月状(半截竹管状の工具使用による)。器外面にマンガン釉施するが、口唇上平坦面・外面面は露胎。素地に明赤褐色・褐色で、白色粒・黒色粒を少量混入。 頸部・胴部に片仮名の銘書あり。	" 銘書 左→右方向 頸部に「ナゴト」 カウ 肩門に「ウ」(人名?)

表4.25. 出土遺物観察表(6)

図版 番号	出土 地点	遺物種類	器種 部位	分類	法量 (cm・g)	観察所見	備考等
図4.42 075	19号墓 墓底前方 1層	陶製専用 威骨器	身 □~底	外反変形 (マンガン釉)	口径 28.1 器高 51.2-50.0 底径 16.4	逆し字状肥厚口縁は微陥の外反。肩の張りには弱く、胴部中央がややゆるる 形状。口縁下に2条単位の横位沈線(3色い凹線)。胴/胴部の境に小さな交帯 を1条めくらす。胴上部(肩門上)に3条単位。胴下部に4条単位の横位沈線(凹線)をめぐらせ文様帯を区画。肩部及び胴部文様帯は、 肩門も含めて2条単位沈線(二文状工具)で施文。 肩門は寄極細の家庭を模し、肩門内中央に円形穿孔1個。肩部文様帯に 透孔文。肩門がある胴部文様帯には素文を充分同時に施文。胴部下文様帯 の2〜4条単位の横位沈線(3色い凹線)。胴部波状文を交互に配置。 下方から順に施文した工程が窺える。 外底面の縁付近に粘土貼付による罫が3ヶ所。底面に穿孔あり5個。 穿孔孔内が平形。 器外面にマンガン施釉するが、蓋が接する口唇上面、外底面は露胎。 明赤褐色の素地に白色粒・黒色粒を少量混入。	墓底中央に半円 威骨器等一括廃棄
図4.43 076	19号墓 墓底前方 1層	陶製専用 威骨器	身 □~底	外反変形 (マンガン釉)	口径 22.3 器高 40.6 底径 14.6	やや小(型(器高40cm前後))。逆し字状肥厚口縁は微陥の外反し、胴部 中央がゆるる形状。 口縁下に2条単位の横位沈線(3色い凹線)。胴/胴部の境に小さな交帯 を1条めくらす。胴上部(肩門上)に3条単位。胴下部に4条単位の横 位沈線(凹線)を2段階にして文様帯を区画。 肩部文様帯の透孔文。胴部文様帯の肩門及び素文、胴部下文様帯の 波状文は2条単位沈線(二文状工具)による施文。 肩門は家庭を模っており、肩門内中央の透孔1個。 外底面の縁付近は透取られ、底面に半月形の穿孔計8個(うち6個は 未貫通)。胴下部に回転工具ナデ痕が残る。 器外面にマンガン施釉するが、蓋が接する口唇上面、外底面は露胎。 明赤褐色の素地に白色粒・黒色粒を少量混入。	"
図4.43 077	19号墓 墓底前方 1層	陶製専用 威骨器	身 □~底	外反変形 (マンガン釉)	口径 21.4 器高 38.7 底径 13.4	やや小(型(器高40cm前後))。逆し字状肥厚口縁は外反。頸部はやや長く、 肩付近が微陥にゆるる形状。 口縁下に2条単位の横位沈線(3色い凹線)。胴/胴部の境に小さな交帯 を1条めくらす。胴門の上下に3〜4条単位の横位沈線(凹線)を配置し 、文様帯を区画。肩部文様帯の透孔文。胴部文様帯の肩門及び素文、 胴部下文様帯の波状文は2条単位沈線(二文状工具)による施文。 肩門は透後周形で、肩門中央に穿孔1個。左右に半縦竹管状工具による 孔を2箇所置く。 外底面の縁付近は透取られ、粘土貼付による罫が3個(保存は2個)。 器外面から口縁部内面までマンガン施釉。 赤褐色の素地に白色粒・黒色粒・微細塵を微量混入。	"
図4.43 078	19号墓 墓底前方 1層	陶製専用 威骨器	身 □~底	外反変形 (マンガン釉)	口径 20.0 器高 34.4 底径 10.7	やや小(型(器高35cm前後))。逆し字状肥厚口縁は外反し、胴部中央付 近でややゆるる形状。口縁下に2条単位の横位沈線(3色い凹線)。 肩門の上下に3〜4条単位の横位沈線(凹線)を配置し、文様帯を区画。 肩門、肩部及び胴部文様帯の透孔文等は2条単位沈線(二文状工具) により施文。076・077に比べて文様帯は同略化された印象。 家庭を模った肩門内中央に穿孔の透が1個。 底面に円形の穿孔5個(うち1個は未貫通)。 器外面にマンガン施釉するが、蓋が接する口唇上面、外底面は露胎。 暗赤褐色の素地に白色粒を微量混入。	"
図4.44 079	19号墓 墓底前方 1層	陶製専用 威骨器	蓋 縁部~口	外反変形 (マンガン釉)	縁径 4.7 器高 3.9 口径 (17.6)	080とセット関係とみられる小型変形の蓋。蓋部の形状は扁平形。縁部 の折れは弱く、(き)も幾分。 外面にマンガン施釉。口縁(縁部)~内面は露胎。 暗赤褐色の素地に白色粒・褐色粒を微量混入。 蓋内面に銘書あり。銘書を裏で見てつづらしたような痕跡もみられる。	(銘書) 【肩門一死/高】
図4.44 080	19号墓 墓底前方 1層	陶製専用 威骨器	身 □~底	外反変形 (マンガン釉)	口径 19.0 器高 27.9 底径 11.2	小型(器高30cm未満)。逆し字状肥厚口縁は外反変形。胴部は微陥に ゆるる形状。蓋が接する口唇上面は微かに窪む。口縁下に2条単位の横 位沈線(凹線)。肩門や素文等の細部が幾分意図的なく、胴部以下に先 端状の工具による多条沈線(5〜7条単位)。胴部波状文を交互に施文。 肩門は平形。胴部中央付近に円形穿孔1個あり。 底面に穿孔あり(底面残存面に計6個)。穿孔孔内が平形。 器外面から口縁部内面までマンガン施釉。 赤褐色の素地に白色粒・褐色粒を微量混入。	"
図4.44 081	19号墓 墓底前方 1層	沖縄産 無釉陶器 (威骨器 転用品?)	蓋 □~底	—	口径 16.7 器高 36.0 底径 15.3	逆し字状に屈曲する口縁。縁部以下内側する頸部で、胴部/胴部の境に4等分線。 肩部から胴上部が微陥にゆるる形状。肩部に2条の縦線。口縁の上と底面? に印状ナデ痕。外面の胴下部(底面近く)に回転工器具ナデ痕が残る。 明赤褐色の素地に1〜2mm程度の白色粒が混入。 威骨器に転用した可能性も考えられる。	"
図4.44 082	19号墓 墓底前方 1層	沖縄産 無釉陶器 (威骨器 転用品?)	蓋 □~底	—	口径 12.5 器高 (45.0) 底径 18.0	外反口縁に微陥は浅まり、ナデ痕から胴部に移行する形状(胴上部で最大 変位)。口縁部は微陥の玉縁状。肩部に2条の縦線。口縁の下と底面? に印状ナデ痕。外面の胴下部(底面近く)に回転工器具ナデ痕が残る。 明赤褐色の素地に1〜2mm程度の白色粒が混入。 威骨器に転用した可能性も考えられる。	" 器部は図上復元に よる推定。
図4.45 083	19号墓 墓底前方 1層	陶製専用 威骨器	蓋 縁部~口縁 (無頸変形)	ボージャー形 (無頸変形)	器高 (15.0) 体部高 8.6 口径 26.4	笠形。縁の形状は宝珠形で有孔(縁の内面が空洞)。縁台は1段で、台 上面に1条の縦線。縁部は透取られ、縁部から胴部にかけては白線文 に、赤褐色の素地に白色粒・黒色粒が少量混入。 残存面に銘書は認められず。	"
図4.45 084	19号墓 墓底前方 1層	陶製専用 威骨器	蓋 縁部~口縁 (無頸変形)	ボージャー形 (無頸変形)	器高 11.3 体部高 9.0 口径 30.5	笠形で、体部は微陥に囲む凸面形。縁の形状は腰筒形で有孔(縁の内面が 空洞)。縁台は1段。縁部は透取られ口唇部は透取られ、口唇部は透取られ。 明赤褐色の素地に白色粒・黒色粒を微量混入。 蓋の外外面に銘書あり。	(銘書) 外周 判断不詳 (銘書) 内周 【一六八ノ一】

表4.26. 出土遺物觀察表 (7)

図版番号	出土地点	遺物種類	器種部位	分類	法量 (cm-g)	観察所見	備考等
図4.45-085	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ16.5 体部高11.8 口径31.3-32.7	鉢形、少し歪みあり。提部形状は宝珠形で有孔(内部が空洞)、提台部は2段。体部から縁の折れは強く、胴内側に「有孔」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い、赤褐色、黒色に施釉あり。	墓前部に伴う 蔵骨器(一部発見) (銘) 「高麗」
図4.45-086	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ17.4 体部高13.1 口径31.0	鉢形、少し歪みあり。提部形状は宝珠形で有孔(内部が空洞)、提台は2段。体部から縁の折れは強く、胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に白色・黒色粒を少量混入。 胴内面に施釉あり。	(銘) 「大正拾五ノ参月 初六日ノ死ノ 一ノ年ノ八拾番ノ一 一歳」
図4.46-087	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ12.8 体部高9.6 口径27.0	鉢形、提の形状は腰筒形で有孔(内部が空洞)、提台部は2段。体部から縁の折れは強く、胴内側に1mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。	「
図4.46-088	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ12.9 体部高9.3 口径29.3	鉢形、全体に歪みあり。提の形状は腰筒形で有孔(内部が空洞)、提台部は1段。台の縁付近に凹線が通る。体部から縁の折れは強く、胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。	「
図4.46-089	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ14.4 体部高10.5 口径27.6	鉢形、提の形状は腰筒形、有孔(内部が空洞)で腰筒部まで貫通する。全体は1段、台の縁付近に凹線が通る。口径比より体部部は高く、全体にスマートな印象。体部から縁の折れは強く、胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。 胴内面に施釉あり。	(銘) 「大正拾五ノ参月 初六日ノ死ノ 一ノ年ノ八拾番ノ一 一歳」
図4.46-090	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ12.1 体部高9.7 口径28.0	鉢形、全体に歪みあり。提の形状は腰筒形で有孔(内部が空洞)、提台部は2段。提の折れは断面が輪状を呈する所に強い。胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。	「
図4.46-091	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ11.9 体部高11.9 口径29.1	鉢形、提の形状は不詳だが有孔(内部が空洞)、提台部は3段で、台の縁付近に凹線が通る。体部から縁の折れは強く、胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。	「
図4.47-092	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ10.15 体部高8.4 口径27.6	鉢形、提の形状は扁平形で有孔(内部が空洞)、提台部は3段。口径比より体部部は低めで丸い印象。体部から縁の折れは強く、胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。	「
図4.47-093	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ10.9 体部高8.7 口径26.4	鉢形、提の形状は扁平形で有孔(内部が空洞)、提台部は3段。体部部は丸みがあり、提の折れは強く、胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。 胴内面に施釉あり。	(銘) 「昭和十四年二月二 日ノ日ノ八日ノ高 原作付」 「昭和十四年二 月二日ノ日ノ二日 ノ高麗」
図4.47-094	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ10.0 体部高10.4 口径21.6-22.2	小型の蓋で、鉢形。提の形状は宝珠形で有孔(内部が空洞)、提台部は1段。体部から縁の折れは強く、胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。 胴内面に施釉あり。	(銘) 「昭和十四年二月二 日ノ日ノ八日ノ高 原作付」 「昭和十四年二 月二日ノ日ノ二日 ノ高麗」
図4.47-095	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ11.3 体部高7.8 口径22.6	小型の蓋で、鉢形。提の形状は腰筒形で有孔(内部が空洞)、提台部は1段。体部から縁の折れは強く、胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。 胴内面に施釉あり。	(銘) 「昭和十四年二月二 日ノ日ノ八日ノ高 原作付」 「昭和十四年二 月二日ノ日ノ二日 ノ高麗」
図4.47-096	19号墓 墓前前方1層	陶製専用 蔵骨器	蓋 提部~口	有頸変形 or 外反変形 (マンガン釉)	高さ10.1 体部高7.6 口径21.0	小型の蓋で、鉢形。提の形状は腰筒形で有孔(内部が空洞)、提台部は1段。体部から縁の折れは強く、胴内側に2mm程度の「き」あり。 外面にマンガン(緑釉、素地)に赤い・黒色粒を少量混入。 胴内面に施釉あり。	(銘) 「昭和十四年二月二 日ノ日ノ八日ノ高 原作付」 「昭和十四年二 月二日ノ日ノ二日 ノ高麗」
図4.47-097	19号墓 墓前前方1層	沖縄産 施釉陶器	瓶 胴~高台	—	口径一 高さ一 底径5.4	瓶子(花生)。胴部から縁にかけてストレートに縮まる筒形で、幅の広い口縁(白化土・透明釉、胴部下下には鉄釉施釉あり)があり、外面は黒釉施釉が特徴的。 胴内面に施釉あり。	18世紀後半~ 19世紀代
図4.48-098	19号墓 墓前前方1層	沖縄産 施釉陶器	碗 口~盞付	—	口径0 高さ一 底径一	縁や口の外側に黒釉が施釉される器種。 全体が白化土・透明釉。だが、内底面は蛇の目紋が施釉、盞付も蛇の目紋が施釉。盞付はアルミ(耐火土)製。施釉は全体に施釉、貫入あり。 素地は赤い・黒い・赤褐色、黒色粒を少量混入。	「
図4.48-099	19号墓 墓前前方1層	沖縄産 施釉陶器	小碗 口~胴部	—	口径一 高さ一 底径一	小鉢の碗。胴部から縁にかけて立ち上る外反口縁。 口縁内面に2本の凹線、その間の凹線に凹線を描くような華匠の文様。青色の素地はやや粗い(灰汁でなく、合成?)の印象。 素地は赤い・黒い・赤褐色、黒色粒を少量混入。	18世紀後半~ 19世紀代
図4.48-100-A	19号墓 墓前前方1層	沖縄産 施釉陶器	瓶蓋(蓋) 頂部~口	—	高さ3.2 口径12.0 底径8.0	アンダーガーマ(蓋)の蓋。縁は丸く、蓋体部は扁平。口口に施釉。 口縁内面に2本の凹線、その間の凹線に凹線を描くような華匠の文様。青色の素地はやや粗い(灰汁でなく、合成?)の印象。 素地は赤い・黒い・赤褐色、黒色粒を少量混入。	18世紀後半~ 19世紀代

表4.27. 出土遺物観察表 (8)

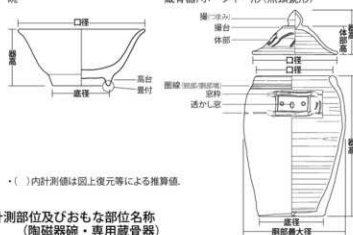
図版番号	出土地点	遺物種類	器種部位	分類	法量 (cm・g)	観察所見	備考等
図4.48 100-8	19号墓 墓前前方1層	沖縄産 施釉陶器	瓶蓋(身) 口縁~胴	—	口径 10.4 高さ 1 底径 —	アンダー・ガーミ(胎土)の身。初めの口縁~胴部は直立して肩が張る筒形。外面に黒粘土施、裏に接する口蓋及び内面は粘土で被せ、白化粗土塗布。素地は明赤褐色で肌理は粗い。	墓移転に伴う 蔵骨器等一括廃棄
図4.48 101	19号墓 墓前(奥)	金属製品 (煙管)	煙管 吸口	—	全長 14.7 吸口径 0.6	延べ煙管の吸口。青銅製。残存率1/3程度で、重量は639g。内側に環字とみられる植物質の残存物を認める。	
図4.48 102	19号墓 墓前前方1層	金属製品 (鉄)	鉄 ほぼ方形	—	全長 14.7 幅長 4.5	片方の刃が鑿状になる鋭利(き)鋭。刀先の一部欠損。重量 4817g。持ち手の指をかける部分は円筒形で、指を掛ける部分も付く。錆で腐食。	墓移転に伴う 蔵骨器等一括廃棄
図4.52 103	23号墓 墓前内	陶製専用 蔵骨器	蓋 操部~口 (丸形)	ボージャー形 (無頸甕形)	高さ 8.3 頂部径 10.4 口径 28.4	筒形で、握が無いタイプ。無文。口縁部は面取りされる。頂部付近に粘土の追加・色付の痕跡がある。明赤色~褐色の素地に白褐色・褐色粒を微量混入。蓋内面に銘文があるが、墨書全体がかなり薄く半読や困難。銘文は、内面外縁に「[墨書]八月拾六日(注?) 曾[墨書]移名(周?) 人[墨書]タテ書きで光緒五年己卯七月四日? 死/曾[墨書]た候か/曾[墨書]号?がまだ人名が[墨書]占/曾[墨書]た候か/死候[墨書]一人引[墨書]	「光緒五年己卯」は 明治22年。
図4.52 104	23号墓 墓前内	陶製専用 蔵骨器	身 口~底 (丸形)	ボージャー形 (無頸甕形)	口径 27.3 高さ 50.15 底径 23.8	筒の張り強く、寸胴状に胴へ移行する器形。甕の形状は平甕形で、張り出しが等しい。口内面に透した窓は1円2円(中央は横形)。左右は円形。口縁下(頸部)胴の境に4条の縦線、胴上部(甕の口縁)に1条単位縦線が2ヶ所に入る。通文文等はみられないが、甕の傍に深凹しに彫刻あり。外面の縁付近に面取りがみられ、底面穿孔は中央に1個あり、赤褐色の素地に白色粒を混入。胴部下部に漆による補修痕跡あり。	23号墓内に置かれた 状態で確認(唯一 の完形品)。 甕骨器内の人骨は 成人男性及び女性。 幼児。乳児及び4体 (第1号参照)
図4.53 105	23号墓 墓前内	陶製専用 蔵骨器	蓋 操部~口 (マンガン釉)	外反変形 (マンガン釉)	高さ 14.8 体部高 9.3 口径 28.4-29.0	鉢形。握の形状は宝珠形で有孔(握内面は空洞)。握台は段が緩やかな造りで1段。体部から握の折れはよほど強くなく、胴は(体部に対して)斜位に付く。胴内面に「き」はみられず。握を中ぐり穿孔4個あるが、漆で覆われている。赤褐色の素地に白色粒を混入。蓋内に銘文は認められず。	
図4.53 106	23号墓 墓前内	陶製専用 蔵骨器	身 口~底 (マンガン釉)	外反変形 (マンガン釉)	口径 28.6 高さ — 底径 —	逆し字状の底面口縁は幾分か外反変形に立ち、胴部から胴上半がやや張る筒形。胴部中央付近を大きく欠くため、甕門の有無や形状は不詳。握が握する口蓋には筒状に深凹した口縁部内に3条の縦線(凹線)が通る。胴部/甕部の境付近に素地よりよく、握上部に素地を2条連続して彫らせ、透線(凹線)で実線を強調。文様等を区画する。	104とともに墓室内 に置かれた状態で 発見(底面付近のみ 残存)。 底面付近には人骨片 が残った状況 確認は図4.51より 推定。
図4.54 107-A	23号墓 墓口周辺 (表側)	陶製専用 蔵骨器	蓋 操部~口 (丸形)	有頸庄付 甕形	高さ 10.4 体部高 5.9 口径 15.9	今回調査の出土品で唯一の有頸庄付(事件付)甕形。サイズはやや小型。鉢形の底面口縁に瓦屋根を構った庄(肩)が付く。角状の貼付装飾がある。握の形状は宝珠形で有孔(握内は空洞)。握台は段状で1段あり段あり。体部から握への折れは強く、握の口縁に5mm程度の「き」あり。6個の角状貼付装飾は身の腹にある装飾と同数で、頸部の装飾が簡略化された形状と推される。	
図4.54 107-B	23号墓 墓口周辺 (表側)	陶製専用 蔵骨器	身 口~底 (丸形)	有頸庄付 甕形	口径 19.0 高さ 36.3 底径 16.3	今回調査の出土品で唯一の有頸庄付(事件付)甕形。サイズはやや小型。胴部/甕部の境付近に瓦屋根を構った庄(肩)が付く。降棒に頸子頭の装飾を簡略化した角状の貼付装飾が6個ある。	
図4.54 108	23号墓 墓口周辺 (表側)	乾用蔵骨器 (沖縄産 施釉陶器)	身 口~底 (丸形)	—	口径 (20.0) 高さ — 底径 —	甕門は透線形状。甕門内に長方形の透孔あり(注1方2方配)。甕門がある胴部文様帯は胴・腹位の貼付粘土で区画。甕門の両脇に法線像・通文文。その他の区画内は通文文を配置。甕部の腹面及び胴部の装飾は、粘土貼付及び補綴により比較的事実と表現される。外面面に貼付3個。底面は円形穿孔あり(底面中央で直径6個。全面に白化粗土塗布後、外面にマンガン施釉(外面及び甕門内・通文文の花部分等を除く)。内にふいね~赤褐色の素地は粗造。黒色粒を微量混入。	
図4.55 109	23号墓 墓前(1層)	沖縄産 施釉陶器	碗 口~底 (丸形)	—	口径 (9.8) 高さ 5.2 底径 4.2	小瓶りの碗。胴部で丸み強け口縁部は緩やかに外反。内外面施釉するが裏付けは無施。釉は掛けが外なられており、外面は黒釉。内面は白化粗土・透明釉。高台内に砂付痕あり。素地は灰白色(10R8.0)。肌理は粗い。	西暦後 18世紀後半~ 19世紀初め
図4.55 110	23号墓 墓前(1層)	本土産 近現代磁器	小杯 口~底 (丸形)	—	口径 5.0 高さ 2.7 底径 1.4	瀬戸・美濃系の小杯。高台輪から口縁まで丸味を帯びながら立ち上がる筒形。口唇部は古状。口唇部内外に貝痕を施す。足見口(内底)に草花図柄の彩色色。素地は白色で磨き。	瀬戸・美濃系

表4.28. 出土遺物観察表 (9)

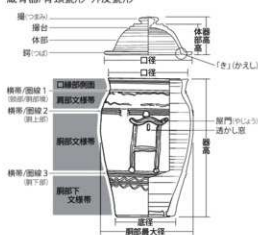
図版番号	出土地点	遺物種類	器種部位	分類	法量 (cm・g)	観察所見	備考等
図4.55 111	23号墓 墓上部 (表層)	本土産 近現代磁器	碗 □-底	—	口径 (13.8) 器高 6.1 底径 (4.6)	磁器碗の破れ、いわゆるスランカンマカイ。腰部が膨らむ碗状碗。 装束類に技法による焼文。全面施釉 (透明釉)。裏面は鮮明な青文。外面に焼文。松竹梅文。腰部に磁文。口縁内にも松竹梅文を帯びた配置。見込み・口縁線 1条。内底中央 (赤塗まり) に松竹梅文。内底に目録あり。素地は黄褐色 (25R7/3) で密着。	磁器碗 (黄褐色)
図4.55 112	23号墓 墓底 (1層)	本土産 近現代磁器	碗 □-底	—	口径 (11.4) 器高 5.7 底径 (3.4)	瀬戸・美濃系碗。腰でやや丸味帯び、口縁部まで直線的に移行する器形。外面に型押しによる絵付。富士山の図形を確認できるが断片的。全面に透明釉。裏付無釉。素地は白色で密着。	瀬戸・美濃系
図4.55 113	23号墓 墓底 (1層)	本土産 近現代磁器	碗 □-底	—	口径 10.8 器高 5.4 底径 3.6	瀬戸・美濃系碗。腰部から全体に丸味を帯びた器形。口縁部はやや丸味を帯びる。外面に型押しによる絵付。鶴の図形を確認できるが断片的。全面に透明釉。裏付無釉。素地は白色で密着。	瀬戸・美濃系
図4.55 114	23号墓 墓室内	中国産白磁 (徳化系)	小碗 □-底	—	口径 (8.4) 器高 (4.0) 底径 —	腰部でやや膨らみ口縁部は緩やかに外反する器形。型成形とみられる。全面施釉後、口縁部を施釉して口内にする。素地は白色で密着。	中国・徳化系 19世紀前半頃か
図4.55 115	23号墓 墓底 (1層)	中国産色絵 (徳化系)	小碗 or 杯 □-底	—	口径 — 器高 — 底径 —	器形は薄手。口縁部が微細に外反するが、小破片で器形不詳。型成形。器外面に緑色彩色の一部を認める。白褐色釉を全面施釉後、口縁部を施釉して口内にする。素地は白色で密着。	中国・徳化系 19世紀前半頃か
図4.55 116	23号墓 墓底 (1層)	ガラス製品	インク瓶 □-底 (完形)	—	口径 2.0 器高 5.5 底径 4.8	緑青色ガラスのインク瓶。重量480g。底部から肩にかけて円筒台形で、肩で段付の窄まり。主軸状の口縁から肩部の垂曲に付く筒形デザイン。体部外面は正面を除く全面に細い、格子状模様を型押しされる。	
図4.56 117	23号墓 墓底 (1層)	銭貨 (開元通寶)	完形	寛永通寶(新)	外径 2.3 孔径 (タテ×ヨコ) 0.63 × 0.65 厚さ 0.12	重量 1.63g。新寛永。いわゆるご開通。孔上に背文であるが文字は不詳。118や15号出土銭貨 079 ~ 023 と比べて薄く精緻な印象。	
図4.56 118	23号墓 墓底 (1層)	銭貨 (開元通寶)	完形	寛永通寶(新)	外径 2.2 孔径 (タテ×ヨコ) 0.56 × 0.53 厚さ 0.15	重量 1.63g。新寛永。で頭通 (不旧手) か。孔上に「元」の背文。孔あり。	
図4.56 119	23号墓 墓底 (1層)	金属製品 (煙管)	身 □-底	煙管 (吸口)	全長 — 吸口径 0.5	延べ煙管の煙口。青銅製。肩部分で欠損しており、残存身部の肩部分に表れている。残存長 115cm。残存重量 159g。吸口に向かって細くなる形状。	
図4.56 120	23号墓 墓底 (1層)	貝類遺体 (穿孔貝)	ほぼ円形	巻貝 (クモガイ科)	殻面 10.5 殻長 7.5 重量 153.0	腹面側に穿孔があるクモガイ貝類。粗孔で (外殻-内殻)。穿孔距離は 3.0 × 29cm。殻面は破損してわずかに残る状態。突起先端はすべて欠損。製品利用の可能性もあるが、穿孔は食用のためか。裏に付くものではなく、先史時代遺物 (埋れ込み) の可能性も考えられる。	
図4.60 121	26号遺構 埋土 (1層)	沖繩産 無釉陶器	壺 底部	—	口径 — 器高 — 底径 (13.0)	壺または瓶形の底部。底部のみの断片で器形不詳。器外面は比較的丁寧な整形。内部には無釉面が残る。素地に赤い・赤褐色 (5YR5/4)、白色粒・黒色顔料を混入。	
図4.60 122	26号遺構 埋土 (1層)	本土産 近現代磁器	碗 □-底	—	口径 8.0 器高 4.7 底径 3.0	瀬戸・美濃系碗。高台碗から腰部が膨らみ、全体に丸味を帯びる器形。外面に型押し技法による焼文。内面無文。外面は口縁下に直線的に直線を描く。青濁文 (淡青色) と組み合わせた遺構の二重輪文。その下位に梅文 (濃青色) 及び3本状梅花輪文 (淡青色) を配置。高台碗に藍文・文様連井文を組み合わせた文様が施される。高台内に直線あり。文様の重なりでみられる。内外面に透明釉。素地は白色で密着。	瀬戸・美濃系
図4.60 123	26号遺構 埋土 (1層)	本土産 近現代磁器	小碗 □-底	—	口径 (6.0) 器高 (3.9) 底径 —	高台碗から膨らみ口縁部に移行する器形。口縁部は古状を呈する。型押しとみられる。口縁部外に浅黄で帯状に彩色。外外面に透明釉。素地は白色で密着。褐色顔料を混入。	瀬戸・美濃系

碗

蔵骨器/ボージャリー形(無頸壺形)



蔵骨器/有頸壺形・外反壺形



・ () 内計測値は図上復元等による推算値。

計測部位及びおもな部位名称
(陶磁器碗・専用蔵骨器)

表 2.29. 出土遺物集計表

遺物種類	遺構 (出土地点)	03号遺構 (築石)		04号墓	05号遺構	06号墓	07号墓	08号墓		13号墓		15号墓				
		礎集中部	周辺	墓内	墓内	岩階内 埋土	周辺	墓室内	1層 (破片)	2層	岩階 割れ目	周辺	表採	イケ (西)	イケ (北)	その他
		表採		表採					1層			表採				
陶製専用 磁器器	1. 無頭腰形 (ボーンジャー元)	蓋 身				2 51										
	2. 有頭腰形	蓋 身									1					
	3. 有頭底付腰形	蓋 身														
	4. 陶製家形 (御殿形)	蓋 身														
	5. 外反腰形	蓋 身														
	5. 外反腰形 (小)	蓋 身														
	6. 火葬用納骨 容器	蓋 身														
	(分類不詳)	蓋 身														
	磁器器転用 品	中国産陶器 (破片)	蓋	1												
沖縄産無胎陶器		蓋														
外来陶器								1	(1)							
沖縄産無胎 陶器	蓋															
	水壺															
	鉢															
	徳利・瓶 (器種不詳)															
沖縄産無胎 陶器	油壺															
	碗															
	小碗															
	花生 (器種不詳)				1											
中国産陶器	強化茶色釉															
	強化茶色釉															
本土産 近現代磁器	砥部焼 (愛媛)	碗														
	瀬戸・美濃系	碗														
		皿														
		小碗														
		杯														
		湯呑														
ガラス製品	小型容器														1	
	石製燗首														3	
燗首	陶製燗首													1		
	陶口															
燗														1	1	
銭貨														3	20	1
	(うち寛永通宝)													(3)	(20)	(1)
金属製品	鐙															
	角釘・釘							2							4	1
	鉄															
	不詳製品							2						1		
瓦																
石器						1										
土器					1	4										
炭化物・焼土										2						
合計 (遺構別)			3	1	1	58		5	3				6	29		

15号基 基庭布辺 採集	15号基 庫下・周辺 採集	17号基 基庭外 採集	19号基				23号基			24号基		25号遺構	26号遺構	その他	合 計 (増減別)
			基室内 欄干 シタ ヒラシ	基庭 袖垣 (東側)	基庭 造成土 (北側)	基庭外 1層	基室内	基門前 ・基庭	周 辺	基門前 ・基庭	周 辺	周 辺	周 辺		
	2					2		1							7
12	43					2	4	2	1	1		2			120
	1					(15)									(18)
4						10									15
1			2	1											4
1															1
						(15)	1	1							(18)
						11	1	1							13
						1									1
						1									1
	2														2
1	1														2
1	3												1		1
						2									5
															2
															1
	2					1			1				3		7
	3					1			1						5
	1														1
	1	1													2
1						1									2
1						1		2							4
					1										1
					1										1
									1						2
								1							1
										1					1
									1	2			1		4
												1			1
1						1							1		3
						2		1							3
											1				1
						2									2
								2							3
															3
									1						1
															1
								2							2
								(2)							26
						2									2
							1								8
						1									1
									1						4
						1									1
												1			2
															5
															2
23	59	1	2	1	1	2	57	8	16	6	1	2	3	6	296